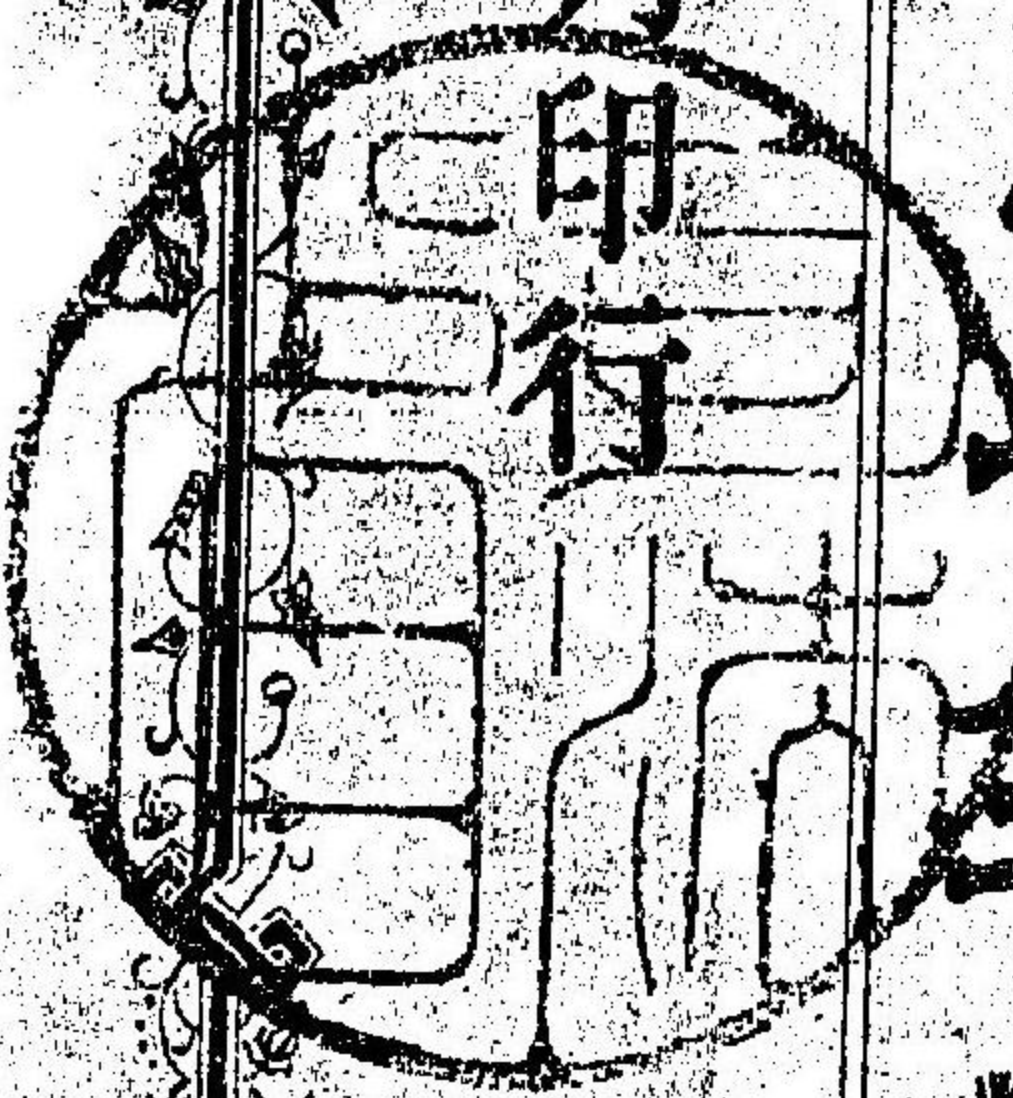




司法部
藏版

大審院民事判決錄

一年九月印行



CZ
~~2/14~~ 28/11
0/1 10

大審院民事判決錄
明治十一年九月
十月

大審院民事判決錄
自明治十一年九月
至明治十一年十月

- | | | |
|---------|-----------------|------|
| 第三百三拾八號 | 板橋犯則一件 | 一丁 |
| 第三百三拾九號 | 立替金一件 | 六丁 |
| 第三百四拾號 | 吳服代金淹滯一件 | 二九丁 |
| 第三百四拾壹號 | 地代淹滯一件 | 三八丁 |
| 第三百四拾貳號 | 山地爭論一件 | 九九丁 |
| 第三百四拾三號 | 遺書履行請求及義妹取戻一件 | 一七三丁 |
| 第三百四拾四號 | 漁場地券受爭一件 | 二一八丁 |
| 第三百四拾五號 | 新築堤防並八ヶ村關水溜故障一件 | 二五三丁 |
| 第三百四拾六號 | 對談違約一件 | 三七三丁 |
| 第三百四拾七號 | 金員預り引纏一件 | 三九六丁 |

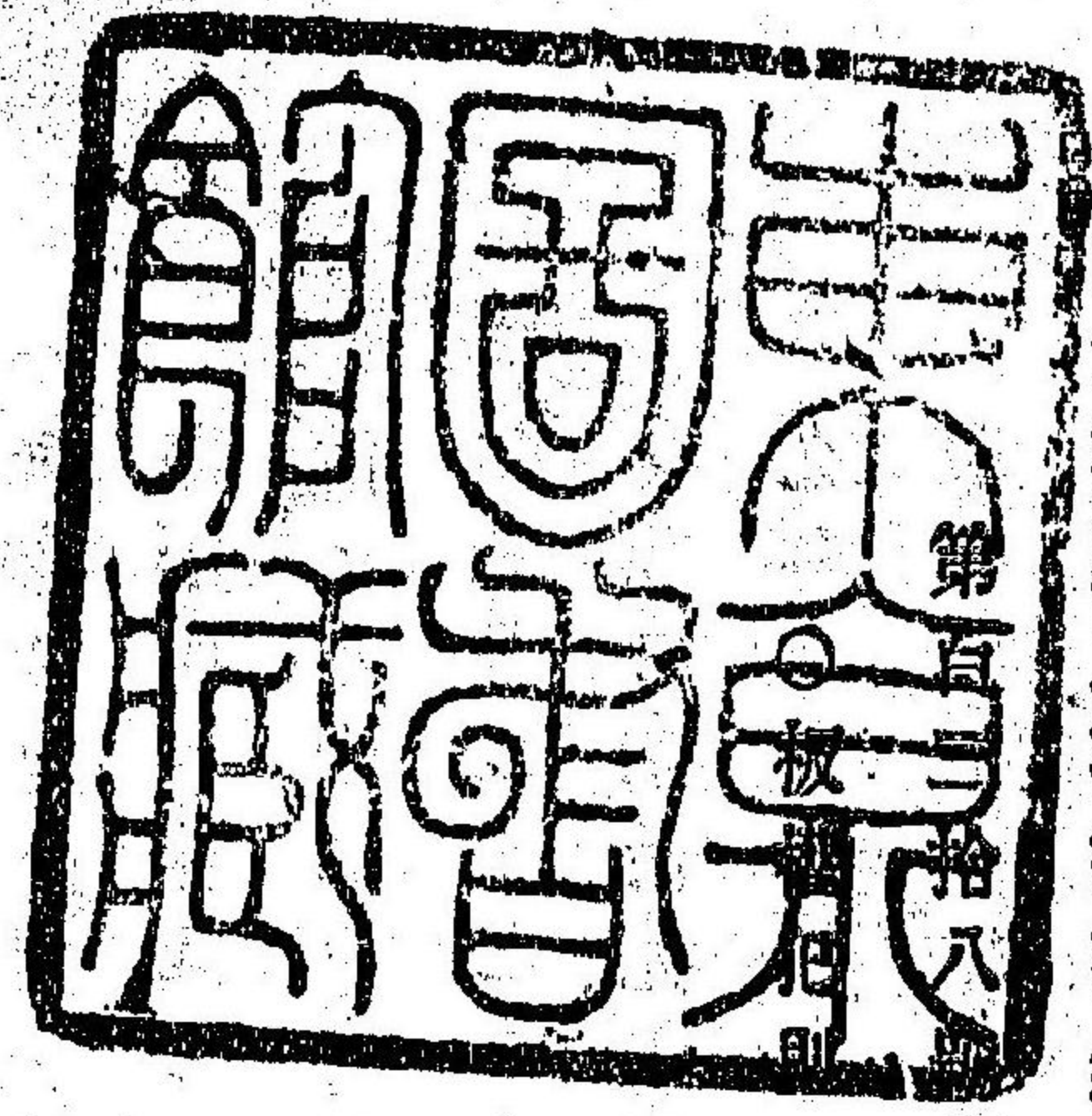
二

- 第四百四拾八號 金員預引繼一件 四二三丁
- 第四百四拾九號 金員預引繼一件 四五〇丁
- 第四百五拾號 流失家財償却一件 四七七丁
- 第四百五拾壹號 約定連變二件 五二九丁
- 第四百五拾貳號 貸金催促一件 五四六丁
- 第四百五拾三號 租稅村費遞渡シ精算譯立一件 五八〇丁
- 第四百五拾四號 貸金辦償催促一件 六二三丁
- 第四百五拾五號 入作地名變爭論一件 六五〇丁
- 第四百五拾六號 內國通運會社妨害一件 七二二丁
- 第四百五拾七號 內國通運會社妨害一件 七七五丁
- 第四百五拾八號 貸金催促一件 八二九丁
- 第四百五拾九號 貸金催促一件 八五四丁

三

- 第四百六拾號 貸金催促執行一件 八九五丁
- 第四百六拾壹號 野山共有地押領一件 九三四丁
- 第四百六拾貳號 共有地割渡難澁一件 九八一丁
- 第四百六拾三號 地券證書換約定連變一件 一〇三二丁
- 第四百六拾四號 貸借地與奪一件 一〇七七丁
- 第四百六拾五號 銃包取戻一件 一〇九八丁
- 第四百六拾六號 入會山差妨一件 一一八一丁
- 第四百六拾七號 貸金催促一件 一一九三丁
- 第四百六拾八號 定卸山地所押領申掛一件 一二一六丁
- 第四百六拾九號 約定連約金催促一件 一二五二丁
- 第四百七拾號 年賦金催促一件 一二六三丁
- 第四百七拾壹號 訴訟入費請求一件 一二八五丁

- 四
- 第百七拾貳號 貸金催促一件 一三〇一丁
 - 第百七拾三號 地所受戻催促一件 一三二二丁
 - 第百七拾四號 蒸氣船二艘附屬品一式引渡違約一件 一三七一丁
 - 第百七拾五號 裁判不法ノ執行救正一件 一三八九丁
 - 第百七拾六號 畑地々券争一件 一四二七丁
 - 第百七拾七號 地分不法一件 一四七六丁
 - 第百七拾八號 境界難澁一件 一五二六丁
 - 第百七拾九號 地所取戻一件 一六〇七丁
 - 第百八拾號 開墾地用水方違約一件 一六二〇丁
 - 第百八拾壹號 共有地争論一件 一七一二丁



大審院民事判決錄 自明治十一年九月
至明治十一年十月

第百八拾八號
一件上告ノ判文明治十一年五月廿三日上告
原告 東京府下第二大區十二

小區麻布鳥居坂町一番

地主族

石川 彝

東京府下第一大區五小

區室町三丁目十番地平

民

木村 源兵衛

一 東京上等裁判所ノ判文

二

該訴ハ元神奈川裁判所於テ明治九年九月八日申渡シタル刑事宣告
 ノ不服ヲ以テ明治九年九月十六日大審院へ上告イタス處明治十年
 十二月二十一日付同院ニテ該件ノ如キハ刑事ニ附帶スル民事ノ部
 分ニ屬ス可キ儀ナルヲ以テ民事ノ手續即チ上等裁判所ニ控訴ス可
 キ儀ナリトシ上告狀却下セラレ但本院審理中經過セシ日數ハ控訴
 期限内ニ算入セサル儀ト可相心得旨判決セラレタリ右上告狀ハ明
 治十年十二月廿四日横濱裁判所ヨリ下ケ渡相成ル由ニテ明治十一
 年三月二十二日當廳へ控訴及テ處初發神奈川裁判所ニテ裁判宣告
 ノ翌日明治九年九月九日ヨリ大審院へ上告狀差出シタル前日明治
 九年九月十五日マテ日數七日并横濱裁判所於テ上告狀受領シタル
 翌日明治十年十二月二十五日ヨリ當廳へ控訴ノ當日明治十一年三
 月二十二日マテ日數八十八日經過シ合九十五日目ニテ控訴スルモ

ノニ付九十日則三ヶ月控訴期限ニ初審横濱裁判所ヨリ當裁判所へ
 至ルノ里程八里余ナルヲ以テ一日ノ猶豫ヲ與フルモ猶四日ヲ經過
 タルニ付明治十年第十九號公布控訴上告手續第五條ニ照準シテ不
 及受理訴狀却下候事 明治十一年
 三月廿八日
 大審院 於テ

原告 石川彝上告ノ要領

第三條

抑控訴ハ上告ニ非ス上告ハ控訴ニ非サルハ公布ニ判然タリ辨別セ
 サルベカラズ其期限ノ如キモ九十日即チ三ヶ月ナル者ハ控訴期限
 ニシテ上告期限ニ非ス然而シテ本訴當初神奈川裁判所ニ於テ宣告
 ノ翌日即明治九年九月九日ヨリ大審院へ上告狀差出シタル前日即
 明治九年九月十五日マテ七日ノ日數ハ即チ上告期限ナリ控訴期限

三

四

ト混淆ス可カラサル者ナリ

第二條

明治九年九月八日神奈川裁判所ニ於テ云渡サレタル刑事ニ附帶スル民事ノ處分ニ不服ト雖モ當時未タ控訴スル能ハス直ニ上告スルノ成規タリ依テ上告及フ處大審院ニ於テ受理セラレ以後一年ヲ經テ審理中明治十年司法省丁第七十四號ノ布達アリ雖然既ニ上告中ナルガ故ニ原告之ヲ如何ニスルヲ無キハ論ヲ俟タス明治十年十二月廿四日横濱裁判所ニ於テ上告狀却下ノ書下ケテ拜受シテ後始メテ控訴ノ手續ニ及ヒタリ其以前ニ在テハ決シテ控訴ノ手續ニ及フ可キニ非ス前條七日間ハ始メ上告ノ爲メニ過去スル所ノ時日ニシテ後テ控訴ノ爲メニ過去セシコト非サルハ理ノ最モ賅易キ者ナリ

第三條

明治九年九月九日即神奈川裁判所云渡ノ翌朝直ニ同裁判所書記局ニ上告願書ヲ差出シタリ上告明細書ヲ差出シタルハ實ニ同月十六日ニ在リト雖モ既ニ上告願書ヲ差出シタル上ハ則上告中ナリ然ラハ上告期限内一日ノ空日ナシ況ヤ其際控訴期限内ノ日數アル可キニ非ス因テ明治九年九月九日ヨリ同月十五日マテ日數七日ヲ本訴控訴期限内ニ算入ス可カラサルモノニ付原裁判ヲ破毀セラレ更ニ公明ノ裁判ヲ與ヘラレシトナシ

上告ノ主點ハ左ノ條件ナリトス

明治九年九月八日神奈川裁判所裁判宣告ノ翌日即チ明治九年九月九日ヨリ本院へ上告狀達スル迄ノ日數ハ控訴期限九十日内ニ算入スヘカラル理由ナルニ算入アリシトナリ

五

辨明

六

明治十年十二月二十一日大審院判文ノ但書ニ審理中經過セシ日數
ハ控訴期限内ニ算入セサル儀ト相心得可然哉司法省へ伺候處伺ノ
通リ裁令ノ上本文ノ通上告狀却下候事トアルニヨレハ東京上等裁
判所カ大審院ノ旨ニ隨ヒ其審理以前ニ係ル日數ヲ控訴期限内ニ算
入セシハ不法ノ裁判ニアラストス

判決

前條ノ筋合ナルニ依リ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキ
ニヨリ上告狀却下候事

第三百三拾九號

立替金ニ件上告ノ判文明治十一年一月十八日上告

原告 丁 抹國人

シヨニイツナ、テウス

代理人 英國人

被告

清國人

清國人

亡章香圃ノ遺物執行人

李 鑑 沂

東京上等裁判所ノ審判

原告 デウス代理人 ビーテス 控訴ノ要領 明治九年八月四日

本訴ハ西曆一千八百六十五年中横濱在駐清國人故章香圃ナル者東
毓昌ト號スル商館ヲ函館港ニ設立シ其弟 或ハ 韓慎齊並ニ同國人黃
宗祐等ヲ以テ右商館ノ支配人ニ任シタリ依之此ノ兩名ハ「デウス」チ
年給四千弗雇使五年間ト取極メ一千八百六十五年九月一日ニ於テ
雇入タリ

七

箱館ニ於テ一千八百六十五年九月一日

第一條

清國毓昌號之橫濱代理人ナル香圃ト箱館之シヨン、ヘンリー、デニス之間ニ左ノ約條ヲ取結ヒタリ則シヨン、デニスハ箱館ニテ右社中ノ代理人トナリ向フ五ケ年ノ間一ケ年四千弗ノ給ニテ社中ノ商業ヲ取扱フ可シ但シ他ノ外國人ノ牙僱代理人トナルコトヲ得レモ其牙錢口錢ハ之ヲ香圃ト折半スヘシ

第二條

「デニス」氏一己ノ私用ニ關スルコトハ其宿料食料トモ自費タルヘシ

第三條

總テ社中ノ商業ニ關スル諸入費給料等ハ本港ニ在ル社中ノ代人

ヨリ之ヲ拂フヘシ

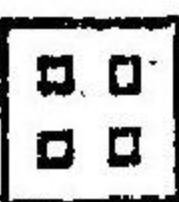
第四條

「シヨン、デニス」若シ領事ノ任ヲ奉スルコトアラハ是ニ關スル入費又ハ利益共其自己ノ物タルヘシ

シヨン、ヘンリー、デニス

章 慎 齊 親筆

黃 宗 祐 親筆



トーマスブラキストン

而テ原告ハ右商館ノ書類中ヨリ取出セシ清歐文ノ書面十六通ヲ以テ故韋香圃ハ該商館ノ長タルヲ證セリ

一千八百六十五年中右韋慎齊疾病ノ爲メ清國香港へ歸省セリ由之

清國人源蔭亭ナル者其代任ヲ受ケ函館東毓昌號商館へ到着セリ其
后源蔭亭並ニ黃宗祐ノ命令ニ依リ原告ハ該社ノ爲メ六千六百二十
八弗五十セントノ金額ヲ該地在駐ノ英國人セームス、エス、チンスリ
ーヨリ借受タリ

然リ而シテ「エンスリー」ヨリ右金員ノ返却ヲ催促ニ及ヒタル處當時
東毓昌號ニ於テ右金額ノ内十分ノ八チ十八ヶ月ノ月賦ヲ以テ濟方
ニ及ハソトテ頼談ニ及ヒタリ然レト「エンスリー」ハ之ヲ肯諾セスシ
テ遂ニ其全額ニ利子ヲ添ヘ速ニ還却受度旨「デユース」ニ對シ訴訟ニ
及ボレタリ依テ英國ノ裁判官「ハンチン」ノ審判ニテ一千八百七十
一年九月一日ニ於テ「デユース」ハ「エンスリー」ニ對シ右金額ノ辨償ヲ擔
承スヘキトテ裁判セラレタリ故ニ「デユース」ハ右裁判ニ從テ其償却
ヲ爲シタリ然ルニ右裁判書ニ此ノ金ハ「デユース」ノ頭長ナル支那人

ノ手ニ渡リ「デユース」ノ自手ニハ入ラストモ猶「デユース」ハ「エンスリ
ー」ニ對シ之ヲ擔承スヘキトアリテ該金ハ東毓昌號ニ借受タルモ
ノ事ヲ「デユース」ハ此事件ニ於テハ唯代理人タリシノミナルヲ明
瞭タリ此ノ故ニ「デユース」ハ元金六千六百二十八弗五十セント并ヒ
ニ利子チ一千八百六十七年十二月ヨリ此訴訟ヲ神奈川裁判所へ差
出シタル日迄ノ勘定ニシテ八千弗トアリ元利合壹萬四千六百二十
八弗五十セントノ金額ヲ故韋香圃管財人被告李鑑沂ニ對シ請求ス
ルニ在リ

被告 李鑑沂答辨ノ要領 明治九年九月廿七日

清國同治十三年四月八日即チ明治七年五月二十三日ニ於テ同國人
韋香圃ナル者ノ囑託ヲ承ケ横濱居留地ニ在ル家屋等ニ關セル業務
ヲ引受ケ管理セリ之レ故韋香圃カ委任セル囑託書アルヲ以テ證據

トス

志堅金石 委任

李鑑沂兄ハ予カ知己ノ交ナリ茲ニ所遺物業并會芳樓ノ生意ニ因
 テ隨時均シク經營籌畫ヲ委任セント要スルニ實ニ其人ヲ得難シ
 是ニ以テ當面シテ鑑沂兄ニ重託ス自後一切代テ經營ヲ爲セ出入
 收支各事ヲ總理シ一ニ其主意ニ聽スヲ任ス我兄弟ヲ棄置スルニ
 由リ各人同胞至親ヲ以テ相壓シ迫勒支取スルヲ得ル毋レ總テ期
 ス所遺物業ハ日後愈積ニ愈厚クシ而シテ遺囑ニ照シテ逐暫分派
 各項ヲ除却セルノ外存下セル分ハ將來郷ニ回シテ產業ヲ代置シ
 我兒肇雄ニ交ヘ世守以テ衣食ノ資ト爲サシメ相好中諒所託ヲ不
 負ンコト予厚ク望有ナリ

同治十三年四月初四日

韋麟 毓 囑筆記

明治七年五月十九日ナリ

弟韋麟毓頓啓

弟病ヲ抱キ已ニ數月矣服藥効罔シ誠ニ恐ル一旦溘然長ク逝カハ
 所遺物業多環無シト雖モ左右ヲ顧ルニ付託其人ヲ得難シ是ヲ以
 テ將ニ遺業生意ヲモツテ李鑑沂兄ニ託シ代テ出入舖事ノ經理ヲ
 ラシメントス一ニ其處置ヲ聽ス倘シ日後我兄弟遺囑ニ不遵異議
 ヲ主スルヲ致スコトアラハ特ニ求ム各位交情ヲ念ヒ借シテ鼎力
 ヲ重クシ言ヲ註シテ一ニ之ヲ知ラシメ將來予カ小子ヲシテ衣食
 實ニ嘉キニ頼ラシメントス人ノ將ニ死ントスル言美シ鳥ノ將ニ
 死ントスル鳴哀シ伏祈垂照感淑不盡 順請 均安

玉池知 玉衡知

達朝知 鑑沂知

證人

鑑沂知

彦卿知 禹崖知
輝堂知 虞階代書

同治十三年四月初四日 即明治七年五月十九日
予昨年十一月間ヨリ病ヲ得初メ風寒ニ感スルニ過キサルノミ以
後日一日ト深ク咳嗽氣喘脾胃虛弱シ飲食ヲ不思肌瘦足腫シ舊疾
轉増セリ誠ニ慮ル一旦身不起トキハ後事各急ニ須ク料理處分ス
ヘキヲ以テ友ヲ倩テ書ヲ立テ、遺囑ヲナス宜シク照シテ遵行ス
ヘシ念フニ予横濱ニ到ルヤ十有餘年來辨房ニ由リテ起立シ創立
セル處ノ各項ノ生意ハ均シク自己ノ經營セル物業ニ係ルナリ原
期日ニ増シ月ニ盛ナルモ料ヲス心事從ハサルニ遇ヒ願フトコ
ロト違フヨリ心緒憂煩勞ヲ積ミ病ヲ致ス十數ク年ヲ回想スレハ
營山所ノ運ヲ以テ家計ニ當ツルモノハ雙親ノ大事及ヒ各弟妹ノ

婚嫁一切動用ノ爲ニ歷年費ス所ノ銀額總テ萬數ヲ以テ計ラ自ラ
問フテ亦以上之ヲ先人ニ對フ此外貽留セル物業ハ幼子肇ニ交ユ
ルモノナリ各人覬覦スルヲ得テ相圖ル母レ謹テ遺業ヲ將テ約略
開載ス舊債ヲ清除シ各柱ニ分派セルノ外ハ留存スルモノ幾モ無
シト雖モ亦我後人ヲシテ克ク勤メ克ク儉シ非テ不務常此業ヲ守
リテ爲ニ遺ヲ忘ル毋ラシメノチ厚ク望ム所也

計開

第一款 横濱居留地百三十五番ノ二階家一棟並敷地連二ヶ所左
ノ方演戲場一ヶ所中二階一棟通街向キ舖店三軒ナリ
前ニ地券ヲ抵當トシテ借ル銀行ノ負債洋銀三千弗ノ分宜シク速
ニ右ノ變賣シテ此項ヲ清還スヘシ
第二款 宜シク當銀壹千員ヲ預留シテ我カ考妣ノ爲ニ永シ祀典

ヲ作セ

第三款 葬費銀四百兩ヲ備フヘシ

但シ 兩位ノ母親及ヒ先妻馬氏並ニ自己ノ爲
ニ將來回鄉安厝等ノ各事ノ用ニ供ス

第四款 將來ヲ囑ス銀五百員ヲ派分シテ第三ノ弟斗南へ交與セ

モ亦銀五百員ヲ第五ノ弟柏如へ交與セモ念フニ右兩弟ハ我ニ隨

テ在埠多年ナルヲ以テ其籍ヲシテ以テ養家セシメントスルナリ

然ルニヨリ此項銀ハ預メ先ツ追勤支取スル不能毎年一分ノ週息

ヲ與テ佗レカ用度ニ充ツヘシ然リト雖モ生意果テ前マサルカ如

キハ全盤ヲ變賣シ則此囑書ノ通り交スヘシ

第五款 銀壹百員ヲ姪天祥ニ交テ娶親ノ用トナスヘシ其忠厚勤

慎ヲ獎シ且其身體羸弱ヲ念フタメナリ

第六款 銀壹百員ヲ姪榜ニ交與ス其娶親ヲ助ケ以テ繼堂兄ノ後

ヨス用テ堂兄ニ少キ時携帶セラレタル舊徳ニ報ス

同治十三年四月初四日 即明治七年 五月十九日

章 麟 毓 面 囑

而シテ李鑑沂カ本業ニ關スルヨリ后一ケ年ノ久敷ヲ經過スルモ他

ヨリ紛紜申出ル者ナシ然ルニ丁抹國人「デユース」ナル者故章香圃ニ

洋銀六千六百二十八弗五十セント之ニ利子八千弗ヲ加算シ壹萬四

千六百二十八弗五十セントノ用立金有之處未ク還却セサル趣キヲ

以テ被告へ對シ其償却ヲ請求スレトモ之ヲ信セサルナリ若シ原告

ノ言ノ如ク故章香圃ニ於テ借用セシナラハ如斯巨額盡ク香圃生存

中之ヲ督促セサラン然ルヲ香圃死后徒ニ一ケ年ヲ經テ其確證ナキ

ヲ待テ始テ遺業囑託セラレタル者ニ對シ最初ノ催促ヲ爲セルハ其

因由解シ難シ且ツ香圃ノ囑託書中ニ「モデユース」ノ金項及ヒ其姓名

ヲモ記セス書中獨リ橫濱十一番銀行ヨリ負債三千弗アルヲ記シ之

レカ歸還ヲ遺託セシメ今回原告ノ訴フル如キハ東毓昌號商社ニ係ル用立金ナリト果シテ然ラハ該商社ハ韋慎齋黃宗祐等ノ兩人ノ所設セルモノニシテ韋香圃ハ之レニ關涉セサルヲ以テ累及スルノ理由ナシ況ンヤ遺囑書ニ右等ニ關スルノ款ナシ又何等ノ證據モナキニ於テチヤ依之李鑑沂ハ右代價ノ責ニ任スルノ義務之レ無キナリ

判文

原告カ提供セシ清歐文十六通ノ書面ヲ熟閱シ就中韋香圃ノ手書ハ本人ノ自筆ニ係ルヤ否ヲ吟味スレモ沒後ノ今日之ニ比較ス可キ十分ノ證據ヲ得サレトモ暫ク之ヲ真正ノ者ト看認ルルハ韋香圃ハ東毓昌號ノ社長ト看做シ得可シト雖モ元來本訴ノ貸借ハ該社ノ支配人タル源蔭亭黃宗祐等ノ指揮ニ依テ該社供用ヲ爲メ六千六百二

十八弗五十セントノ金額ヲ英人「セームス、エンスリー」ヨリ「テユース」ノ借受タル趣キヲ右源蔭亭黃宗祐等ノ證言ヲ以テ之レ證據ト爲スニ過キス然ラハ則當「テユース」モ又等シク該社ノ雇人ナリ其社友ノ證言アルモ他ニ一切該社ニ借受タルノ的證ト看認ム可キモノナキノミナラス其社主ト指シ雇主ト稱スル韋香圃ニ於テ該金額ヲ借受又ハ使用ヲ爲シタルトノ證據ナキニ依リ原告ハ故韋香圃ノ管財人李鑑沂ニ對シ該金額請求スルノ權利ナキモノトス
明治十年十一月十九日
大審院ニ於テ

原告「テユース」代官人カルクト陳述ノ要領

一此上告ハ初メ橫濱裁判所ニ訴ヘ而シテ上等裁判所裁判不服ナルニ起リ元來其請求ハ一萬四千六百二十八弗五十セントノ金額ニ係レリ但シ此金額ハ一千八百六十七年十二月十六日ヲ以テ被告ヨリ原

告ニ拂フヘキ金六千六百二十八弗五十セント并ニ其日ヨリ以後ノ
利足ヲ合算シタルモノナリ

一 一千八百六十五年被告ハ「フン、ユクヤヤン」ノ名ヲ以テ箱館及ヒ横濱
ニ於テ商業ヲ營メリ而シテ被告ハ支那人ト俱ニ右ノ名ヲ以テ商業ヲ
營メリ

一 右被告ハ即チ頭取ニシテ右社ノ代人トシテ諸事ヲ管理セリ

一 同人ハ一千八百六十五年中日本ニ於テ同社ノ支配人タリキ

一 此契約ハ一千八百六十五年九月一日ヲ以テ被告ノ社中ト原告人ト
取結ヒタルモノニシテ即チ「テウス」氏及ヒ支那人二人即チ「ワイチヨ
ンサイ」「ワンタンサン」之ニ調印セリ但シ同人等ハ横濱「ヒヨンプウ」
會社ニ於テ被告人ノ代理ヲ爲セリ
一 余ノ被告ト云フハ「ヒヨンプウ」ヲ指スナリ

一 此書面ニハ兩名ニテ調印シ而シテ後箱館ニ在ル社ニ廻シ社ノ印ヲ
鈐セリ此書面ニ調印シ並ニ社ノ印ヲ鈐セシ者ノ内一人ハ「ヒヨンプ
ウ」ノ兄弟ニシテ即チ「ワイチヨンサイ」ナリ

右兩人ハ箱館ノ事務ヲ管理スル爲メ該地ヘ派出セシ者ニテ即チ俸
金ヲ給與セリ

一 如何ナル方法ヲ以テ右俸金ヲ給與セシヤ余ハ之ヲ知ラスト雖モ同
人等ハ「ヒヨンプウ」ニ代リテ事ヲ辨セシ者ナリ

一 一千八百六十七年十月「ヒヨンプウ」ヨリ在箱館「ワンサン」ニ送リタル
書翰此書翰ヲ以テ即チ「ヒヨンプウ」ハ在日本該社ノ長ニシテ自他ハ
同人ノ配下タルヲ證スルニ足ル可シ

一 「ヒヨンプウ」ハ箱館社ニ於テ拂フヘキ金高ヲ決算スヘキ旨ヲ該地ニ
在ル「アサン」ニ申送レリ

一 約定書ニ依リテ「デウス」氏ハ箱館ニ於テ「ヒヨンプウ」ノ代人ナルヲ判然ナリ

一 右決算ヲ爲シタルニ「インスレー」氏ニ拂ハサルヘカラサル金額アリ依テ同氏等ハ「ヒヨンプウ」ノ依頼ヲ受ケ横濱チルコン商會ニ向ケ六千六百二十八弗五十セントノ爲替ヲ取組メリ

一 右ハ前年即チ一千八百六十六年中ニ「デウス」氏カ「フンユクサヨ」社中ノ爲メニ「インスレー」氏ヨリ一萬五千分ノ「我一分銀」ヲ借り受ケタル負債ノ爲メニ生シタル金額ナリ而シテ此金ヲ借受ケタル次第ハ「アサノ」及ヒ「デウス」ノ申立ヲ以テ判然タリ

一 右一萬五千分ノ代リニ「デウス」氏ノ「ユクサヨ」ノ社中ニ約定證券ヲ渡セリ

一 然ルニ右爲替手形ノ拂期限ニ至テ之ヲ拂ハサルカ故ニ「インスレー」

氏ハ「デウス」氏ヲ相手取り英國裁判所判事ノ中裁ヲ請ヘリ此時ニ當リ「デウス」氏ニ於テ右金額ハ自己ノ爲メニ借リタルニアラス全ク「ヒヨンプウ」ヨリ委任ヲ受ケタル社用ヲ以テ借受ケタルモノナル旨ヲ申立タリ而シテ當時横濱裁判所判事ノ補員トシテ在留スル上等裁判所ノ判事之レカ中裁ヲ爲シ前キニ貴院ニ差出置キタル判決ヲ與ヘ即チ證書面ニ「デウス」ノ姓名ヲ記載セシ故ヲ以テ右金額ハ「デウス」ヨリ「インスレー」ヘ拂渡スヘキ旨ヲ命セリ然リト雖モ「デウス」ニ於テ右金額ハ其主役タル支那人ニ渡シタル故ヲ以テ之ヲ論破セリ故ニ玆ニ二箇ノ疑問ヲ生セリ即チ其一ハ「インスレー」ヨリ借受ケタル金額ハ社ヨリ之ヲ借受ケタルモノナルヤ其一ハ「ヒヨンプウ」ニ於テ之ヲ拂フヘキ義務アルヤ否ノ件是ナリ

一 右爲替手形ノ裏書ノ趣ト其表面ニ右金額ハ「ユクサヨ」商會ノ計算

ニ充ル旨記載アルヲ以テ即チ「デウス」ノ「インスレー」ヨリ借受ケタル金「ヒヨンプウ」社用ノ爲メ同氏ニ於テ借受ケ全ク自用ニ供スル爲メナラサルコト瞭然タリ

右「アサン」及ヒ原告人及ヒ英國判事ノ判決及ヒ「インスレー」カ負債償却ノ儀ニ付「デウス」ヲ訴ヘントスル時ニ當リ在横濱ノ「ヒヨンプウ」社ニ於テハ割賦ヲ以テ右負債十分ノ八ヲ償却セシメテ示談セシメテ之ヲ證明ス可シ殊ニ在箱館商社ニ於テハ現ニ「ヒヨンプウ」ヨリ償却スヘキ六千六百二十八弗五十セントノ金額ヲ「デウス」ヨリ受取リタル「ハ」會テ毫モ之ヲ辨駁スル者ナキヲ以テ見レハ「デウス」ハ全ク社用ノ爲メ之ヲ借受ケタルコト昭カナリ

二「ヒヨンプウ」ハ該社員タル「疑」ヲ容レヌ依テ「ヒヨンプウ」ハ其責ヲ免ル、コトヲ得ズ若シ又該社員「疑」ヲ容ルモ契約ノ事及ヒ其契約ニ從ヒ

「デウス」ノ取扱ヒ「疑」事件ニ付テハ總テ「ヒヨンプウ」ノ責ニ歸ス可シ蓋シ其社員タルト否トニ拘ハラヌ同氏ハ在日本該社ノ長タル「疑」ヒナキカ故ナリ

右「アサン」ノ口供及ヒ在横濱「ヒヨンプウ」ヨリ箱館ノ社ニ送リタル書翰及ヒ原告人自ラ之ヲ證明セリ加之約定書ノ三條ニ總テ事務ニ付キタル諸費用并給料ハ「ユシチヨシ」氏ノ代理人ニテ擔當シ之ヲ拂渡ス可シト記載セリ此他一千八百六十七年十月二十三日「ヒヨンプウ」ヨリ「アサン」ニ送リタル書翰ノ儀ニ付「ヒヨンプウ」ノ依頼ヲ受ケ在横濱「タルマン」ヨリ「デウス」ニ送リタル一千八百六十七年十月二十三日付ノ書翰ヲ以テモ亦之ヲ證明ス可シ

大審院ニ於テ
辨明

上告者カ陳述中其要點タル韋香圃ハ函館東毓昌號ノ社員ニシテ該社契約ノ事及ヒ「デウス」ノ取扱ヒタル事件ニ就テ韋香圃ハ其責メニ任スヘキ證據ハ「アサン」黃宗祐「云」ノ口供及ヒ韋香圃ヨリ函館ノ社ニ送りタル書面又一千八百六十七年十月二十三日韋香圃ヨリ「アサン」黃宗祐ニ送りタル書翰ノ儀ニ付韋香圃ノ依頼ヲ受ケ「ナルマン」ヨリ上告人「デウス」ニ送りタル書翰ヲ以テ該社ノ長タル「疑ナキ」ハ上告人自ラ之ヲ證明シ而シテ契約書ノ第三條ニ總テ事務ニ付タル諸費用并ニ給料ハ「毓昌號」ノ代人ニテ擔當シ之ヲ拂ヒ渡スヘシト記載アル旨申立ルニヨリ其第一號ノ契約書ヲ閱スルニ上告人ニ於テ當時締盟連署セシモノハ即「デウス」韋慎齊黃宗祐ノ三人ニシテ韋香圃ハ連署人ノ中ニ在ラス唯其契約第一條中ニ香圃ノ名ヲ隱記シ在ルノミ而シテ香圃カ此契約書ヲ認メシ證據ナシトス左スレハ上告人

ハ此契約書ヲ以テ香圃ニ對シ責任アルモノト爲ストテ得ス又「アサン」黃宗祐ノ口供ハ韋香圃カ死後ニ成ルモノニシテ香圃承諾ノ證ナキニ依リ香圃カ之ヲ了知シタルノ證據ト爲ストテ得ス而シテ韋香圃ヨリ函館ノ社ニ送りタル書翰「英文」ニ譯シ差出セルニ通即チ第十七號證及ヒ同號附屬書面ノ文意ハ原書清國文第九號第六號ノ意味ニ適合セサル所アルニヨリ今其清國文ニ就テ辨明スヘシ第九號第六號書面文中函館毓昌號ニ關係スル處アルモ年月ヲ記サ、ル故其送りタル年月ヲ確認スルニ由ナシト雖モ姑ク上告人カ呈スル第十七號一千八百六十七年十月ト云ヒ又十一號ニ同年十月二十三日ト云フヲ參酌シ之ヲ同年月ノモノナリト看做スモ第九號文中慎齋舍弟前者因、目病回廣現下在省調治聞得業已見効俟其痊可早晚自當着其前來商理生意便是トアルヲ以テ「ミレ」ハ香圃ノ商事ニアラスシテ

其弟タル韋慎齋ハ函館社中ノ一人ナルヲ以テ香圃ハ弟慎齋ノ爲ニ
 關係セシモノ、如シ夫斯ノ如クナレハ韋香圃ヲシテ直ニ函館東毓
 昌號ノ負債ノ責ヲ擔當スヘキモノト看做ヲ得ス然ラハ則香圃ハ函
 館東毓昌號ノ責任ナキモノニ付第二號爲換手形ハ函館東毓昌號ノ
 源森槐三等ヨリ發附シタルモ之ヲ諾スルト否トハ香圃ノ隨意ニシ
 テ且ツ契約書中第三條ノ如キハ總テ社中ノ商業ニ關スル諸入費給
 料等ハ本港ニアル社中ノ代人ヨリ之ヲ拂フヘシト明文アル上ハ此
 手形ヲ以テ香圃ニ對シ要求スヘキ理由ナキニヨリ東京上等裁判所
 カ其社主ト指シ雇主ト稱スル韋香圃ニ於テ該金額ヲ借受又ハ使用
 ナ爲シタルトノ證據ナキニ依リ原告ハ故韋香圃ノ管財人李鑑沂ニ
 對シ該金額請求スルノ權利ナキモノト裁判シタルハ相當ナリトス

判決

前條ノ筋合ナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキ
 モノトス

第四百四拾號

○吳服代金淹滯一件上告ノ判文明治十一年二月廿六日上告
 明治十一年九月七日申渡

原告

東京府下第二大區二小

區芝口二丁目十五番地

高須佐平治代人

同府下第一大區十六小

區築地壹丁目二番地

新井義助

被告

同府下第一大區十四小

區長谷川町十五番地

東京上等裁判所ノ審判

山下忠七郎

原告 高須佐平治代人新井義助控訴ノ要領 明治十一年一

明治九年四五兩月中ニ取引シタル吳服代金凡四百五拾圓余有之處

明治九年中ニ追々入金致シ殘金ハ更ニ明治十年一月三十日本證ノ

如ク

記

一金百九拾八圓貳拾七錢

但吳服代金

此濟方内課

本年三月三十日金百圓濟方約定同年五月十五日金九拾

八圓貳拾七錢濟方約定

右ハ濟方延引致申譯無之依テハ前書濟方定候對談取極候ニ付兩

度ニ皆濟可申候若一日ニテモ違約候ハ一時御取立相成候共其

節異議申聞敷候爲後日濟方約定書仍テ如件

第二大區三小區

芝口四丁目十五番地

明治十年一月三十日

高須佐平治

山下忠七郎殿

右約定ナシタルレ該物品ヲ取引シタル明治九年四五月中ヨリ起算
シ明治九年十一月ニ至リ既ニ六個月ヲ經過シタルハ則明治六年第
三百六十二號御布告ニ據テハ該證書ハ商人互ノ賣掛代金ニシテ其
期限ヲ經過シタル後ニ成立タル證書ニ付該吳服代金拂方ノ義務ハ
法律上ニ於テ免レタリ然ルニ東京裁判所ニ於テハ明治九年九月以
來殘金全ク淹滯シタル上ハ其淹滯セシルヨリ出訴期限ヲ起算スヘ

キ等ニテ證書ノ成立ハ爾後六个月内ニ係ルヲ以テ出訴期限第一條ニ牴觸セサル者ナリトノ裁判承服難致ト申立タリ

被告 山下忠七郎代人岸安兵衛答辨ノ要領

原告ニ於テハ明治九年四五兩月取引ノ滞金ト申立ツレトモ同年九月中ニ大半ハ入金致シ殘額等閑置シテ以テ催促候末更ニ明治十年一月ニ至リ則チ證書ニ取結候儀ニテ全ク滞リタルハ明治九年十月ヨリニテ未タ六个月内ニ有之ニ付訴期限ヲ經過シタル者ニアラス依テ法律上期滿得免ノ者ニハ決シテコレナキ旨申立タリ

判文

原告ニ於テ被告カ提供スル明治十年一月三十日付ノ證書ハ吳服代殘金ニテ明治九年四五兩月中ニ取引セシモノナルニ依リ明治六年第三百六十二號ノ公布出訴期限ニ據シテ明治九年五月ヨリ向テ六

个月即チ明治九年十月迄ノ期限ナルニ其期限ヲ經過シ既ニ期滿得免ノ權ヲ得タル後ニ成立タル證書ナレハ假令該證書被告方ヘ差入シアルモ法律上ニ於テ其義務ヲ免レタル者ナリト申立被告ニ於テハ出訴期限ヲ經過セシモノニ非ル者ト答辨ス右ハ姑ク之レチ原告申立ノ如ク一旦期滿得免ノ權ヲ得タル者ト看做スモ更ニ本訴ノ證書ヲ被告ヘ差入タル上ハ該書ニ對シ其以前ノ云々ヲ陳述シ不服ヲ唱フルコトヲ得ス因テ原告申分不相立候條到底初審裁判所裁判ノ通り可相心得事 明治十一年二月十三日

大審院ニ於テ

原告 高須佐平治代人新井義助上告ノ要領

明治九年四五兩月中原告ヘ吳服買取ノ砌リ被告ヘ渡スヘキ殘金百九十八圓二十七錢アレハ嘗テ取引上ニ付示談モ之レアルニヨリ追

協議書付シ置タル處昨明治十年八月中東京裁判所へ出訴ニ及ハ
 シ同年十月右金員ヲ被告へ辨濟スヘキトノ裁判ヲ受ケタルニ付明
 治十一年一月二十六日東京上等裁判所へ控訴及ヒ候處同年二月十
 六日原告申分不相立候條到底初審裁判ノ通可相心得事ト裁判アリ
 タリ然ルニ商人互ノ賣掛代金ハ明治六年第三百六十二號御布告ノ
 通り六ヶ月期限ニテ其期限ヲ起算スルヤ品物取引ヲナセシ日ヨリ
 滿六ヶ月ヲ過シハ法律上ニ於テ其代金ヲ請求スル權利ヲ拋棄セシ
 モシ、如シ之レニ依テ見レハ被告請求スル金員モ明治九年四五兩
 月ニ於ケル賣掛殘金ナレハ出訴期限ヲ過キ去ル既ニ遠ク即チ特權
 ナ失ヒシモノナリ假令被告カ初審及終審ニ呈供セシ證據ヲ以テ出
 訴期限内ナリトスルモ該證ハ無効ノモノニシテ賣掛殘金ヲ請求ス
 ル特權ナキ證書ナリ如何トナシハ品物取引ノ日ヨリ九ヶ月餘ヲ經

テ受授シタル證書ニシテ該證ノ成立サル前既ニ出訴期限ヲ失ヒシ
 モシナレハナリ故ニ今被告カ所持スル明治十年一月三十日付ノ證
 書ハ慶應三丁卯年十二月晦日以前ニ係ル平民金穀貸借ノ證書ヲ明
 治元年戊辰後ニ更改シタルモノト同一ニシテ裁判上無効ノモノナ
 ルハ明白ナリ矧シヤ北條縣伺明治七年十月二十四日御指令ニ荷物
 受取渡シノ日ヲ以テ期限ト見做シ云々トアルニ於テチヤ前陳ノ如
 シナルニヨリ東京上等裁判所ノ判決ハ不法ト思考スルニ依リ該裁
 判ヲ破毀セラレ更ニ明瞭ノ裁判ヲテシテ乞フ
 上告ノ主點ハ左ノ條件ナリトス

第一 被告ヨリ請求スル金額ハ元來吳服賣掛代金ナルヲ物品取引
 ノ日ヨリ九ヶ月余ヲ經テ約定證書ニ改メタルモノニシテ該證ノ
 成立タル前既ニ六ヶ月ノ出訴期限ヲ過去リタルモノニ付明治

六年第三百六十二號ノ公布ニ依リ原告ニ於テ期滿免除ノ權ヲ得
タリトノ事

第二 原告ヨリ被告ヘ差入レ置キタル明治十年一月三十日付ノ證
書ハ慶應三年丁卯以前ノ金穀借用證書ヲ明治元年戊辰後ニ更改
シタルモノト同一ニシテ裁判上無効ノモノナリトノ事

辨明

第一條

原告ノ陳述スルカ如ク物品取引ヲ爲シタル明治九年五月ヨリ出訴
期限ヲ起算スレバ明治九年十一月ニ至リ既ニ六個月ヲ經過シタル
ニ由リ法律上ヨリ之ヲ觀レハ原告ニ於テ期滿免除ノ權ヲ得タルモ
ノナリト雖モ明治十年一月三十日ニ至リ吳服代金濟方延引シタル
ヲ陳謝シ更ニ濟方約定證書ヲ原告ヨリ被告ヘ差入レタルニ據レハ

原告ニ於テ故ナシ人ノ物ヲ以テ己レヲ利ズヘカラサルノ道理ニ基
キ更ニ被告ニ對シ義務ヲ負擔シタルモノト云ハサルヲ得ス然ルニ
初審ニ於テハ本訴ノ證書ヲ以テ出訴期限六個月ノ中ニ成リ立タル
モノトシ被告初審ノ權利ヲ保護シタルニ由リ控訴裁判ニ在テハ更
ニ一步ヲ進メ假令一旦出訴期限ヲ經過シタルモノト看做スモ更ニ
本訴ノ證書ヲ被告ヘ差入レタル上ハ其以前ノ云々ヲ陳述シ不服ヲ
唱フルコトヲ得サルモノトナセリ其趣意同シカラスト雖モ到底原告
カ吳服代金辨償ノ義務ヲ免レタリトノ申分ヲ採用セサルハ同一ノ
義ニ付東京上等裁判所カ到底初審裁判所裁判ノ通可心得ト判決セ
シハ吳服代金ヲ辨償スヘシトノ旨趣ニシテ不法ノ裁判ニアラスト
ス

第二條

凡ソ事ニ就テ規則ヲ定ムルモノハ其事異ナレハ其規則モ亦隨テ同
シカラス故ニ原告ヨリ被告ヘ差入レ置キタル明治十年一月三十日
付ノ證書ヲ賣掛代金ヲ約定證書ニ認メタルモノニシテ丁卯以前ノ
借用證書ヲ戊辰ノ後ニ書改メタルモノト同一ノ事ニ非ラサルコト付
甲ノ規則ヲ以テ乙ノ事ニ援引ス可ラサルモノトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモ
ノトス

第四百四拾壹號

○地代淹滞上告ノ判文明治十年五月十二日上告
明治十一年九月九日申渡

原告 區横濱平沼新田平民平
被告 徒町平民永山敬三代人

東京第五大區四小區仲
東京第一大區十小區築
地一丁目士族

牧 三 鼎

東京上等裁判所ノ判文

地代淹滞之一件舊神奈川裁判所ノ判決不服ノ趣ヲ以テ及控訴ニ付
遂吟味處

原告 永山 敬三 訴ル主旨ハ明治三年閏十月二十五日及十二月二十一日ニ
於テ被告所持地平沼新田字本田見付畑幅貳拾間長八拾間則チ千六

百坪壹坪ニ付一月地代金銀五分千六百坪ノ敷金百六拾兩ニテ永借ノ契約ヲ爲シタリ
但該地永借契約ノ節原被立會見分ノ上境界ノ標杭ヲ打立タレヒ該時引渡ヲ受ケタルニハアラサリシナリ
本文契約書ノ寫左ノ如シ

入置申敷金證文ノ事

平沼新田字本田

一見附畑

長五拾間
幅貳拾間

此坪千坪

此敷金百兩也

但シ壹坪ニ付銀六匁也

右ハ我等所持ノ内御拜借イッテ書面ノ坪數畑地ノ儘永々貴殿へ貸渡シ申候處實正也依之爲身元敷金前書ノ金子儘ニ預リ置申候

埋立ノ義ハ貴殿方ニテ御出金被成候テ家作補理ニ相成候共差支無之候最我等方へハ壹坪ニ付銀五分ツ、御地代毎月無遲滯御納可被成候稻町並ノ御地代御上納ニ相成候節且又土地ノ盛衰ニ應シ増減相成候共其節御差出可被成候萬一御用地ニ相成候節ハ右金御返シ可申候爲後日敷金證文仍テ如件

平沼新田

地主名主

明治三年閏十月廿五日

平沼 九 兵衛印

永山 敬藏 殿

入置申敷金證文ノ事

平沼新田字本田

一見附畑

長三拾間
幅貳拾間

此坪六百坪

此敷金六拾兩也

但シ銀六匁也

右ハ我等所持ノ内御拜借イシ書面ノ坪數畑地ノ儘永々貴殿へ
貸渡シ申候處實正也依之爲身元敷金前書ノ金子儘ニ預リ置申候
理立ノ義ハ貴殿方ニ出金被成候テ家作補理ニ相成ル共差支無
之候尤我等方へハ壹坪ニ付銀五分ツ、御地代毎月無遲滞御納可
被下候猶町並ノ御地代御上納ニ相成候節ハ且又土地ノ盛衰ニ應
ジ増減相成候共御差出シ可被成候萬一御用地ニ相成候節ハ右金
御返シ可申候爲後日敷金證文仍テ如件

明治三庚午年十二月廿一日 平沼新田 九 兵衛印

永沼山 敬藏 殿
地所埋立入費請取書寫
一金九拾兩也
右ノ地所埋立入用ノ内儘ニ請取申候以上

明治三年十二月廿一日 平沼新田 九 兵衛印

該地以所用ハ材木揚場又ハ家屋ヲ造營シ他人ニ貸與スルノ
目的ナルニ當時水面地ニ付其儘ニ用テ爲ルルニ因リ原告
敬ニ於テ埋立ノ存意ナル處被告
平沼九
兵衛
ニ於テ外地所埋立ト同埋
立ノ上引渡スヘキ趣キ申スニ付其意ニ任セ埋立ヲ被告
平沼九
兵衛
ニ托
明治三年十二月三日 明治四年十二月二十九日 右埋立

入費悉皆及柵木入用共合計金八百九十二兩二分ヲ被告〔平沼九〕ニ拂
 右埋立方最初半程ハ忽チ相辨シタレ其後ハ一向不抄取及掛合
 タルニ未タ神奈川縣廳ニ於テ町並地拜借聞届無之ニ付不抄取趣無
 是非猶豫致シ置タル處明治五年三月頃ニ至リ悉皆落成ヲ認メタル
 故直チニ引渡ヲ掛合タレ其右埋立地神奈川縣廳ノ見分未濟ニ付引
 渡難相成趣相答ヒ尤ニ存シ其儘差扣ヒ爾後追々及催促タレ何分
 埒明不申右掛合中明治五年四月頃ヨリ一箇ノ紛議ヲ生シタリ其故
 ハ從前埋立地ハ埋立人ハ地券下渡シノ筈ナルニ該時元地主ハ地券
 下渡相成ヘキ趣ニ付原告〔永山〕ヨリ被告〔平沼九〕出金スヘキ間地券ハ
 原告〔永山〕ニ受領致シ度旨及掛合タルニ被告〔平沼九〕ハ過分ノ出金ヲ
 望ニ遂ニ熟議ニ至ラス依テ明治六年六月六日被告〔平沼九〕ニ對シ相

當ノ趣意金ヲ以テ地券受度旨舊神奈川裁判所へ及出訴旁以テ地所
 引渡遷延相成タリ然ルニ舊神奈川裁判所ニ於テハ元地主地券請ト
 相定ル上ハ雙方示談ヲ遂ルハ格別訴訟ノ權利無之難及受理旨ヲ以
 テ訴狀却下相成ニ付明治六年八月中埋立人ハ地券下付有之度段神
 奈川縣廳へ願出タル處被告〔平沼九〕他行中故歸縣後可取調旨ニテ書
 面留置キ相成其後副區長高島小八郎取扱中明治七年二月十四日被
 告〔平沼九〕ヨリ前永借證書ヲ以テ地代淹滯訴訟ニ及ヒタルニ付明治
 七年二月二十二日答書差出タリ
 右審問ノ末結局答辨ノ趣キハ該永借地未タ引渡ヲ受ケサレハ地代
 ナ拂フヘキ義務ナキハ勿論被告〔平沼九〕ニ於テ右埋立地へ恣マ、ニ
 致家作材木置場トシ若林彌兵衛ナルモノニ貸與シ多分ノ地代受取
 又ハ一己ノ取計ヲ以テ遺敷ヲ相除ク等畢竟被告ヨリ貸地ノ契約ヲ

破壊スルモノニ付兼テ原告〔永山〕ヨリ差入タル敷金及埋立代金元利共返却受度旨申立タリ

但原告〔永山〕ニテ家作致シタルヲ發見セシハ明治六年中ニ付爾來度々及掛合タレモ取合不申又道敷相附タルヲ發見致シタルハ明治七年八月二十五日原被立會該地見分之節ニ有之

右審問中明治七年三月十六日被告〔平沼九〕ニ對シ別ニ該地借用ノ契約ヲ廢シ敷金及埋立代金取戻ノ訴狀ヲ差出シタル處明治七年七月二十八日ニ於テ原告〔永山〕ノ請求不相立尤被告〔平沼九〕ヨリ若林彌兵衛ニ貸地ノ分ハ被告〔平沼九〕ヨリ可請取旨申渡サレタリ該裁判ハ素ヨリ不服ナレモ未タ被告〔平沼九〕ヨリ相掛リタル訴訟審判中ニ付右落着ノ都合ニ依リ控訴可致存意ニテ差扣居レリ
尤當時被告〔平沼九〕 代理人堀口常次郎ヨリ地所請取吳度旨原告〔永山〕 敬三

代理人岡本忠三ニ掛合有之ニ付若林彌兵衛家作取除タラハ可受取旨及返答處明治七年九月ヨリ取掛リ明治八年七月迄ニ右家作取除明治八年七月下旬前堀口常次郎原告〔永山〕方ニ參リ該地面請取渡致度旨申入レタレモ原告本人不在ニ付家内ニテ承リ其儘ニ致シ置タル處明治八年五月十五日舊神奈川裁判所ニ於テ右常次郎ヨリ原告〔永山〕 敬三 代理人今泉利春ニ請取渡シ談判有之ニ付未タ一廉審問中ニ付落着ノ上ナラテハ難請取旨利春ヨリ及返答置タリ
明治八年十二月十八日舊神奈川裁判所ニ於テ裁判申渡サレタル第一條ニ本來該地貸借ノ契約既ニ成リタルモノト雖モ未タ其埋立地形引渡ノ手數ニ至ラズ全ク整ハサルモノトノミニテ引渡サハル所由ヲ吟味不相成ハ不服ノ一ナリ第二條ニ埋立落成ノ後ニ非レハ借地料不仕拂トノ明文無之ニヨリ明治三年十月二十五日ヨリ右借地料

ヲ以テ被告敬三へ借受ケタルモノトス依テ其以后ノ借地料ハ原告
 〔平沼九〕兵衛へ可拂入當然ノコト假令借地料可仕拂約ヲ爲スト雖モ違約
 彼レニアレハ我モ亦前約ヲ履行セサルハ當然タルヲ可拂入ハ當然
 トハ不服ノ二ナリ第三條ニ明治五年十一月彌兵衛へ貸遣迄ノ借地
 料ハ道敷坪數ヲ除キ約定ノ通受拂スヘキコトアレハ該地ハ原告〔永
 敬三〕ノ費用ヲ以テ之ヲ埋立タルニ被告〔平沼九〕兵衛土功落成ノ日ヲ幸ヒト
 シ地價ヲ數十倍トシテ地券ヲ受ケ千六百坪ノ内貳百七拾坪ヲ彌兵
 衛へ恣マ、ニ貸與シ借地料ヲ受取且道敷ヲ丁字ノ如中央ニ劃シ地
 形ヲ三分シ恰モ自費ヲ以テ埋立タル如ク恬トシテ地所ヲ引渡サス
 之ニ因テ其破約ヲ責メ入費還却ヲ促ス所言ヲ左右ニ寄セ遷延時日
 ヲ移ス中却テ被告〔平沼九〕兵衛ヨリ前約證書ノ借地料ヲ請求スルハ眞ニ
 不當ノ所業ト謂ヘシ然ルニ此判決ニ隨ヒ借地料道敷坪數ヲ除キ約

定ノ通り受拂スルキハ彌兵衛へ借地並ニ道敷ニ相成ル土功ハ頓ニ
 消滅ス繼テ其土功ニ費ス所ノ金額モ亦拋棄セサルヘカラス果シテ
 然ラハ被告〔平沼九〕兵衛ニ於テハ無謂ノ富ヲ得原告〔永山〕敬三ニ於テハ謂レナ
 キノ損失ヲ受クルモノニテ到底裁判ノ趣意了解シカクシ是不服ノ
 三ナリ第四條ニ自今更ニ原契約履行スヘシトアレハ最初目途ノア
 ル有テ千六百坪ノ地ヲ一纏ニ埋立タルモノナルヲ土功落成スレハ
 地所引渡サ、ルノミナラス恣マ、ニ他人ニ貸與シ剩サハ勝手ニ道
 敷ヲ立クレハ彼レカ違約ハ既ニ已ニ現然ク然ラハ則我ニ於テ前
 約ヲ履行スヘキノ理萬モ無之處更ニ原契約ヲ履行スヘシトノ判決
 ニテ被告〔平沼九〕兵衛違約ノ證據ハ毫モ問ハレサルハ不服ノ四ナリ右ノ
 理由ナルニ付更ニ審理ノ上先年差入タル敷金并埋立入費へ相當ノ
 利子ヲ加ヒ差戻スヤウ裁判ヲ仰クナリ

被告〔平沼九〕於テ該地理立中ハ原告〔永山〕ヨリ高野與七ヲ以テ不斷見張爲致原告〔永山〕ニモ時々見分ニ參リ云々又埋立出來揚之上可引渡定約モ無之云々申立ツレ共右様ノ儀ハ一切無之素ヨリ契約書ハ取置カサレトモ落成之上ハ可引渡旨口約定ハ致置タリ

又明治五年八月一日及明治六年一月ニ於テ該地千六百坪原告〔永山〕ヨリ渡邊惣右衛門へ讓渡金圓受取タルハ原告〔永山〕へ埋立地引渡シタル證據明了云々申立ツレ共右ハ金融ノ爲メ證書ニテ讓引致シタル事ニテ其物件引渡不相濟トモ取引致ス義世間如何程モ有之事ナリ而シテ乙圖朱引之内原告〔永山〕埋立地ト言所ニ彌兵衛ナル者ニ貸地アリ而シテ其彌兵衛ナル者ノ借地ハ乙圖朱引外被告〔平沼九〕埋立地ニ跨レリ此ニ依テ之ヲ見レハ明治七年八月二十五日立會見分スル迄ハ其地方ハ一般ニ被告〔平沼九〕之埋立地ニテ原告〔永山〕之依頼ス

ル處之埋立地ハ何レニ有ルヲ不知也之レ則チ該地理立落成之後地所引渡シテ行ハサルノ證也

又彌兵衛へ貸ス處ノ地ハ原告〔永山〕之埋立地ナルヲ以テ原告〔永山〕へ示談ノ上貸遣シタリト申立ツレモ原告〔永山〕示談ノ上ナテハ承諾ノ證アリヤ且ツ郊外無人家之地ニ於テ僅ニ三百餘歩ノ地ヲ借り家作スルニ兩地ニ跨テ借入ルト言フ理ハ何レノ點ヨリ出タルヤ之レ即チ一般被告〔平沼九〕ノ埋立地ニテ此度乙圖へ朱引シタルハ兩地へ跨ルコトノ知レタルナレハ是亦埋立地落成ノ上原告〔永山〕へ引渡サ、ルノ證也

又埋立落成ノ上原告〔永山〕へ引渡サス且ツ原告〔永山〕約スル處ノ地形ニ不拘被告〔平沼九〕於テ勝手ニ一般埋立タルモノナレハ何所カ原告〔永山〕約スル處ノ埋立地ナルヤ其境界モ無之原被立會見分ノ節ニ至

リ右埋立地ノ内ヲ以テ千六百坪繩張シタル者ニテ乙圖朱引ノ内ハ
 原告〔敬三〕〔永山〕之爲ノ埋立タルモノニ非サルモノナリ
 又右埋立地縣官見分ノ儀ハ速ニ相濟ム様取計吳度旨原告〔敬三〕〔永山〕ヨリ
 毎々依頼有之右見分濟之儀相通シ原告〔敬三〕〔永山〕夫婦高野與七山崎治兵
 衛來リ道敷ノ斜ナルニ至ツテハ困却ナリト雖モ官之都合ヲ以テ地
 割相成タルコトナレハ自儘ニ割替テ願ハンハ不容易ト彼是共議中山
 崎治兵衛於テ吾地方官ニ知己アリ宜ク有司ヘ托スヘシト陳述スル
 ナ以テモ今更被告〔平沼九〕〔兵衛〕ヘ向ケ苦情可申立謂レ無之云々申立ツレ
 共右様ノ儀ハ一切無之元來原告〔敬三〕〔永山〕ノ約スル處横廿間堅八拾間ナ
 レハ道敷ハ無之モ可ナルニ被告〔平沼九〕〔兵衛〕於テ一般ニ地先ヲ埋立地形
 廣大ニナルヲ以テ道ヲ作ラサルコト得ス其道ヲ作ルハ被告〔平沼九〕〔兵衛〕
 之勝手ニ出ルモノニテ全ク原告〔敬三〕〔永山〕ノ約スル處ノ意ニ非ス且ツ道

敷ハ圖面ノ外ニ付クヘキ場處有之必シモ該處ニ不限又原告〔敬三〕〔永山〕借
 地ナレハ一應原告〔敬三〕〔永山〕ヘ承諾爲致度旨被告〔平沼九〕〔兵衛〕ヨリ縣官ヘ陳述
 可致ニ其儀無之只縣官ノ指揮ニ任ストノ申分ハ難心得
 又若林彌兵衛ヘ貸地ノ儀ハ原告〔敬三〕〔永山〕承諾ノ趣ニテ證書モ取置云々
 又家作致シタル儀ハ素ヨリ原告〔敬三〕〔永山〕ノ目撃スル處ニ有之然ルニ被
 告〔平沼九〕〔兵衛〕ヨリ明治七年二月十四日及出訴迄何タル故障モ不申立且
 此訴訟前後ニ高島小八郎原告〔敬三〕〔永山〕手許ヘ差出シタル地代計算書ニ
 彌兵衛借地料差引相立置タルニテモ全ク原告〔敬三〕〔永山〕協議ノ上貸借シ
 タル證據云々申立ツレ共彌原告〔敬三〕〔永山〕於テ承諾致シタルコトナレハ被
 告〔平沼九〕〔兵衛〕ヘ證書可取置等然ルニ却テ被告〔平沼九〕〔兵衛〕ヨリ原告〔敬三〕〔永山〕ヘ證
 書差入ル儀ハ如何ニモ不審也素ヨリ原告〔敬三〕〔永山〕埋立地ヲ被告〔平沼九〕〔兵衛〕
 ヘ貸付タル事無之故右家作ハ原告〔敬三〕〔永山〕埋立地外ト存シ傍觀致置タ

リ且ツ地代計算書採受取タル儀ハ之レナク
 又地價ノ儀ハ一坪ニ付金壹圓五拾錢ノ定價ニテ地券面ニ記載有之
 トイヘ共埋立タル故右ノ地價ニ相成タル譯ニ無之云々申立ツレモ
 右地價ノ儀ハ今日ニ至リテハ下落致シ三分一以下ノ價ニ相見ユル
 ト雖當時ハ壹圓五拾錢ノ價ニ有之且ツ以前水面ノ節トテモ五拾錢
 ノ價ハ決テ無之有ノ次第ナル故埋立テ以テ地價ノ騰貴致シタル儀
 相違無之元來該地ハ窪地ナル故下直ナル田地ニ有之然ル處町並地
 ト相成タル故地價モ隨テ騰貴致シタリ右ハ被告〔平沼九〕於テ一般埋
 立タル儀ナレハ悉皆地券可請取等ナレモ内廿間八拾間ハ原告〔永山
 敬三〕埋立タル儀ナルニ被告〔平沼九〕於テ一般ニ地券領受致スルハ被告〔平
 沼九兵衛〕於テ右埋立入費ヲ可掛當然ナリ右様原告〔永山敬三〕出金埋立タルニ
 其地引渡モ不致被告〔平沼九兵衛〕於テ擅ニ他人ニ貸與シ且ツ地券ヲ受領

シ隨意ニ道ヲ付ル等都テ被告〔平沼九兵衛〕ハ之レカ爲メニ無謂ノ富ヲ得
 原告〔永山敬三〕ハ損失ヲ受タル儀ニ付埋立入費并ニ敷金ニ相當ノ利子ヲ
 付ケ返戻受度志願ナル旨申立
 被告〔平沼九兵衛〕答フル主旨ハ明治三年閏十月廿五日及十二月二十一日
 兩度ニテ被告〔平沼九兵衛〕所持平沼新田見付畑巾二十間長八拾間則千六
 百坪壹坪ニ付一ヶ月地代金銀五分千六百坪ノ敷金百六拾兩ニテ原
 告〔永山敬三〕永貸ノ契約致シタルト相違無之
 本文明治三年閏十月二十五日附證書ノ寫左ノ如シ
 入置申地所證文之事
 平沼新田字本田
 一見附畑
 此坪數千坪

長五拾間
 幅貳拾間

此鋪金百兩也

右者貴殿所持ノ内町並地ニ御拜借ニ相成書面ノ坪數畑地ノ儘借
リ受我等方ニ而埋立申處實正也御地代ノ儀者壹坪ニ付銀五分
、毎月二十七日限急度相納可申候且又町並ノ御地代御取立ニ相
成候節者増地代トシテ相納可申候若相滯候節者御地所御引上ケ
可被成候猶土地ノ盛衰ニ應シ地代増減可被成候其節異論申間敷
候並ニ町法渡世等ノ規則ノ義者萬端貴殿御差配次第聊相背申間
鋪候爲後日地請證文入置申處仍如件

地借主

明治三年閏十月二十五日

永 山 敬 藏印

引受人

高 梨 丹 治印

平沼新田

地主名主

平沼九兵衛殿

右契約ノ都度原被立會境界標杭取建地所引渡タル處原告〔永山〕ヨリ
該地平坦ナラサルニ付埋立致吳度旨倚頼ニ付引請致世話右入費ノ
儀ハ原告〔永山〕申立ノ通追々受取タリ尤埋立中ハ原告〔永山〕ヨリ高野
與七ヲ不斷見張爲致且ツ原告〔永山〕ニモ時々致見分明治四年四月上
旬乙圖ノ通及落成處原告〔永山〕ヨリ道敷見分速ニ相濟ム様取計吳旨
倚頼モ有之明治四年四月中神奈川縣廳へ右埋立見分ノ上道敷地割
相成度旨願書差出シタル所測量掛酒井彌助ト申入出張ニテ繩ヲ張
リ杭ヲ打テ道路ヲ被定タリ其節隣地モ一同道敷相付テ故只官ノ指
圖ニ可任モノト心得別ニ望ミハ不申立直ニ右見分濟ノ儀原告〔永山〕

敬三

へ申通スル處明治四年四月下旬原告〔永山敬三〕夫婦並高野與七山崎次兵衛罷越地所ノ成功ハ申分無之ト雖モ只道ノ斜メナルニ至テ困却ナリト云ヒ於被告モ同様然リト雖モ官ノ都合ヲ以テ地割相成リタルコトナレハ自儘ニ割替テ願ハシハ不容易ト彼是共議中山崎次兵衛ニ於テ我レ地方官ニ知己アリ宜ク有司ニ托スヘシト申述ルニ因リ原被相共ニ依頼致置タリ其後明治四年六月中埋立地間口ノ間敷並地價等可書出旨神奈川縣廳ヨリ達ニ付圖面相添書出タル末明治五年十一月二十八日ニ至リ地券下渡相成尤右ハ被告〔平沼九兵衛〕ヨリ願出タル義ニハ無之右地券下渡前明治五年八月朔日該地所ノ内千坪原告〔永山敬三〕ヨリ渡邊總右衛門へ讓渡金圓受取又明治六年正月中殘六百坪モ渡邊總右衛門へ讓渡其都度原告〔永山敬三〕ヨリ依頼ニ付讓渡證書ニ被告〔平沼九兵衛〕與印致置タリ

本文與印證書ノ寫左ノ如シ

讓渡申證文ノ事

一金四百兩也

但正金也

右ハ平沼新田字本田ニテ平沼九兵衛殿拜借町並地ノ内別紙繪圖面ノ通長五拾間幅貳拾間此總坪千坪我等分借自分入用ヲ以テ埋立所持罷在候處右埋立料示談ノ上今般貴殿へ讓渡書面ノ代金并示談金共只今不殘正金ニテ加判人立會ノ上儘ニ請取申候處實正也然ル上ハ直ニ相渡可申候處少々差支ノ義有之候ニ付證人親類立會ノ上御約定仕候通來ル十月晦日限リ御猶豫被成下忝存候右日限ニ相成候ハハ分借地速ニ貴殿御名前ニ御書換御渡可申候御勝手次第御取計可被成候其節ニ至リ異論个間敷儀決テ申間敷候依之沽券狀並繪圖面共二通御渡申上置候右分借地ノ義ニ付外々

ヨリ故障の間敷申モノ一切無御座候若彼是申者有之候ハ、我等引受何方迄モ罷出埒明ケ貴殿へ少モ損毛御迷惑等相掛ケ申間敷候爲後日戸長奥印證人親類加判ノ證文仍如件

長者町一丁目

明治五申年八月朔日

永山敬藏印

右同所

親類

證人

河野與七印

渡邊總右衛門殿

前書ノ通相違無之ニ付依之致奥印候以上

戸長

平沼九兵衛印

右同様文意ヲ以明治六酉年正月中金貳百圓也同渡邊總右衛門へ證書渡置候事有之

其節奥印依頼狀左ニ

拜啓益御清榮奉賀候陳再度恐入り候得共舊臘モ願上候通ノ次第ニテ社中共一時融通ノタメ跡六百坪ノ方證書認昨日願ヒ度昇堂仕候處御他出ノ趣拜承仕候ニ付押付ケ間敷恐縮仕候得共少々取急候ニ付御内室様へ一應御内話申上右證文御預ケ申上置候間御奥印被下候様奉願上候右ハ參堂不願上候ヲハ失本意失敬奉存候得共昨夜ヨリ少々腹痛ニテ引籠居就テハ河野與七可差上處是モ今朝役用ニテ他出被致候故無據小僧久次郎ト申モノ申聞差出候間何卒御承諾御調印御下ケ被遣被下候様奉伏願候何レ一兩日ノ

内參上萬端御禮可申上候右願用迄御海恕不一

五月二十一日

永山 敬 藏

平沼九兵衛様

尙々御内室様へ昨日ハ種々御手数敷蒙リ難有奉謝候宜敷御通聲希
上候且本文願用取急是非今日中無之候テハ差支候次第勝手ケ間
敷恐入候得共何卒御承知ノ上御調印御下ケ被下候様奉願上候以
上

其後若林彌兵衛ヨリ該地ノ内二百七十坪借入度旨依頼有之右望ノ
場所ハ渡邊總右衛門讓受地ノ内ナレハ總右衛門へ談判可致モノト
一應思慮スレ共右讓渡證書ニ原告〔永山〕ヨリ與印ヲ乞ヒタル際一時
金融ヲ付ル迄ニテ其内ニ受返スヘキ趣ニテ未ク總右衛門借主名義
ニ書替不致折ニ付直チニ原告〔永山〕方へ參リ右彌兵衛依頼ノ次第談

合シタル處早速承諾致シ尤彌兵衛ヨリ差出ス所ノ地代ハ原告〔永山〕
ヨリ被告〔平沼九〕へ可拂入地代ノ差引ニ相立吳度旨依頼ニ付其意ニ
任シ則被告〔平沼九〕ヨリ貳百七十坪ノ借地證書原告〔永山〕へ差入尙被
告〔平沼九〕埋立地ノ内四拾坪ヲ加へ都合三百拾坪明治五年十一月二
十七日右彌兵衛へ貸渡彌兵衛ヨリハ被告〔平沼九〕宛ニテ證書取置タ
リ彌兵衛ハ直チニ致家作タルナリ

本文若林彌兵衛ヨリ被告宛證書ノ寫左ノ如シ

入置申借地證文ノ事

一町地三百拾坪

右ハ貴殿所持地平沼新田ノ内前書坪數別紙鹿繪圖面間數ノ場所
當申ノ十一月ヨリ來ル午ノ十一月迄中十年ノ間借地仕候處實
正也地代ノ儀ハ壹坪一个月銀壹匁宛ノ割合月々相納可申尤年限

中タリヒ上納御取増ニ相成候歟又ハ土地ノ變革盛衰ニ寄地代増減ハ市中前後ノ振合ヲ以テ御相談可仕筈然ル上ハ地所へ相抱リ候儀ハ何向貴殿方ニテ御出銀被成候筈尤借地人並合其外町並ノ諸入用ハ私方ヨリ差出シ可申尤家作其外取建ノ儀故十ヶ年相過キ候共雙方差支無之上ハ尙改テ貸渡被下候筈且年限中タリヒ御用地ニ相成家作其外建物引拂御手當御下ケ渡有之候節ハ不殘私方へ御渡被成候筈若シ地代等相滞リ候ハ、地所御引上ケ可被成候其節彼是申入間敷候且又我等身分ニ付何様ノ儀出來イタシ候共加判ノモノ引請將明貴殿へ少シモ御迷惑相掛ケ申間敷候且御用地ニ相成候節地所入用ニ候ハ、貴殿所持地ノ内外場所見計相當ノ地代ヲ以貸渡被下候筈猶又年限中相互ニ勝手ヲ以テ地所取戻シ返地等致間敷事

御上様時々御布告御觸ノ趣相守其外都テ御法ノ儀ハ相背申間敷候依之爲後證入置申借地證文仍テ如件

地借人 若林彌兵衛印

明治五壬申年十一月日

引受證人

成川平五郎印

平沼九兵衛殿

前書證文取置貸渡シ申候尤右地坪ノ内四十坪全ク私埋立地御座候殘テ二百七十坪永山敬三埋立地ニ御座候

神奈川縣下第一大區

三小區平沼新田

平沼九兵衛印

明治六年三月頃ト覺ヘ原告〔永山敬三〕ヨリ地券ヲ貰受度趣掛合有之ト雖
 元來該地永々貸渡ス義ハ畢竟一坪ニ付銀五分ノ約定ニテ右代價ヲ
 目途ニ貸渡タルト故右代金并相當ノ地代金相渡ス上ハ可致協議旨
 及返答處終ニ原告〔永山敬三〕ヨリ明治六年五月中舊神奈川裁判所ヘ及出
 訴右採用不相成ヨリ神奈川縣廳ヘ願出タルニ付被告〔平沼九兵衛〕モ呼出
 相成其節モ借地以來今以地代不相渡ト故地券相渡ス儀ハ不承諾ノ
 趣申立猶其末副區長高島小八郎説諭モ有之ト雖前顯ノ通申述其節
 地代計算書差出ス所原告〔永山敬三〕於テハ右地代八圓程ノ外無之趣申
 立示談遂ニ不行届ニ付被告〔平沼九兵衛〕ヨリ明治七年二月中地代淹滯ノ
 儀舊神奈川裁判所ヘ及出訴所右請求地代ノ内六百坪分ハ原告〔永山敬三〕
 ヨリ受取置タル借地證書紛失被告〔平沼九兵衛〕手許ニ無之ニ付採用不相
 成依テ明治七年二月十四日更ニ千坪分地代淹滯ノ義及訴訟處原告

〔永山敬三〕於テ地所差戻一件申立ルヨリ裁判所於テ地代相拂タル上地所
 ノ義可相願趣ニテ原被告受書迄差出置タル處明治七年三月十六日借
 地差戻シ敷金埋立入費取戻シノ義及出訴遂ニ審問ノ末明治七年五
 月二十三日ニ至リ舊神奈川裁判所於テ原告〔永山敬三〕埋立ノ地面ヲ被告
 〔平沼九兵衛〕ヘ賣拂ナリ又ハ從前在形ノ地面ヲ原告〔永山敬三〕ヘ賣拂ナリ熟談
 可致旨被申聞タル處原告〔永山敬三〕於テ實地見分ニ及ヒ代價取極示談致
 度由ニ付其意ニ任シ日延證書差出置其後雙方立會見分ノ上原告〔永山敬三〕
 敬三ヨリ壹坪ニ付金壹圓ニ買取吳ル様ニトノ義ナレトモ銀貳拾目ニ
 致シ吳ル歟或ハ在來ノ地面ヲ壹坪貳拾目ニ買取吳ルカト申談シタ
 ル處承諾不致終ニ熟談不相成故其趣書面ヲ以テ裁判所ヘ申立置タ
 ル處明治七年六月五日呼出サレ若林彌兵衛ヘ貸付タル迄ノ地代計
 算書可差出趣被命直ニ取調書差出置ナリ

其後明治七年七月二十八日ニ至リ原告〔永山〕敬三ヨリ出訴ノ一件ハ其請
 求不相立尤彌兵衛借地ノ儀ハ原告〔永山〕敬三ハ差戻スヘキ旨裁判相成ニ
 付被告〔平沼九〕兵衛 代理人堀口常次郎ヨリ原告〔永山〕敬三 代理人岡本忠三ハ右
 受取方ノ儀申入ル處家作取除タレハ可受取趣ニ付若林彌兵衛へ家
 作取拂申付置タル所明治七年八月二十四日ニ至リ舊神奈川裁判所
 ヨリ雙方呼出サレ被告〔平沼九〕兵衛ヨリ出訴ノ地代一件熟談濟方可致旨
 被申聞タル處實地立會調査ノ上精算致度旨原告〔永山〕敬三ヨリ申立其意
 ニ任シ延期ヲ乞ヒ右調査ノ末明治七年八月二十六日地代差引計算
 書原告〔永山〕敬三ハ相渡置タル處二十七日ニ至リ地券讓請度段只管懇望
 ニ付明治七年九月二日迄延期願書差出置タレ右期日ニ至リ原告
 〔永山〕敬三 代理人大海原尙義ト申者ヨリ破談申立ニ付始末書可差出旨被
 申渡其後度々審問有之其末明治八年四月五日ニ至リ被告〔平沼九〕兵衛

明治七年八月二十六日已後地代差引計算書差出シタル處不日裁
 判申渡可有之趣ニテ其儘罷歸タリ
 右若林彌兵衛家作ハ明治七年九月ヨリ取掛リ明治八年七月迄ニ悉
 皆取拂タルニ付直ニ受取渡ノ義被告〔平沼九〕兵衛 代理人堀口常次郎ヲ以
 テ及掛合處原告〔永山〕敬三 不在ノ趣ニテ家内ノ者ト談合致置タレ其後
 何タル義モナク打過キタル中右常次郎義明治八年九月十五日舊神
 奈川裁判所於テ原告〔永山〕敬三 代理人今泉利春へ出會右ノ趣申込ム處被
 告〔平沼九〕兵衛ヨリ出訴ノ地代淹滞ノ一廉未タ審問中ニ付該件落着不相
 成上ハ受取方難出來旨ニテ裁判執行不致ニ付右ノ譯柄舊神奈川裁
 判所へ申立置タレ其儘ニテ何分ノ指圖モ無之明治八年十二月十
 三日ニ至リ被告〔平沼九〕兵衛ヨリ出訴ノ地代淹滞一件裁判相成タリ右申
 渡第一條ニ埋立地形引渡手數ニ至リテハ全ク整ハサル云々右ハ原

告〔永山〕於テ明治五年八月朔日渡邊總右衛門へ地所讓渡ノ義モ有之
〔敬三〕此等ヲ以テモ地所不引渡譯ニ無之然ルニ斯ク裁決相成タルハ被告
〔平沼九〕ニ於テモ不服ナリ
〔兵衛〕

原告〔永山〕於テ該地理立ノ義最初半分程ハ忽チニ相辨シ其後一向不
〔敬三〕掛取及掛合處町並地理立拜借開届無之ニ付不掛取云々又明治五年
三月頃ニ至リ悉皆落成ヲ認メ及掛合處見分不相濟云々被告〔平沼九〕
於テ答ヘタル趣申立レトモ右様ノ掛合ヲ受タル義一切無之若シ許
可ナキニ理立レハ官廳ヨリ答テ受ヘキ筈ナリ然ルニ其沙汰ナキハ
則既ニ開届ヲ得タル證ナリ明治四年四月中地割見分ヲ縣廳へ願立
タルハ則チ理立落成ノ證ナリ
本文地割見分願ノ寫左ノ如シ

武州久良岐郡 平沼新田地主名主

武州久良岐郡

平沼新田地主名主

平沼九兵衛

右奉申上候私所持ノ平沼新田地内先般町並地ニ御拜借奉願上候
處御開濟被成下置難有仕合ニ奉存候然ル處右場所不殘成功ノ上
御見分奉願上道敷地割仰ニ隨ヒ家作補理望ノモノへ貸渡シ可申
ノ處何分四五萬坪ノ場所ニテ私身分不如意勝ニ候間親類共ニ相
頼金子融通致シ理立仕候得共不殘理立候ニ行届キ兼候間別紙鑑
繪圖面朱引ノ通理立仕候間甚御手数奉恐入候得共御見分奉願上
一ト先家作補理望ノモノへ貸渡候ハ、地位モ一ト際相立可申ト
奉存左候ハ、殘地ノ分速ニ理立可仕候實以テ此儘手延ニ相成候
テハ當地へ住居可致ト心得候モノモ見合候様成行當惑仕候間乍

恐前顯ノ次第御賢察被成下置格別ノ以御仁恤ヲ御見分被成下置
候様偏ニ奉願上候以上

右

明治四年未四月日

平沼九兵衛

神奈川縣

御役所

明治四年四月下旬原告〔永山敬三〕夫婦外兩名罷越道敷ノ協議ニ及ヒタル
ハ則チ縣官見分濟ノ證ナリ右ノ次第ニ付假令掛合ヲ受ルトモ埋立
ノ許可アラズ或ハ見分無之坏ト被告〔平沼九兵衛〕ヨリ答ナル謂レ之レナ

又埋立落成ノ上ハ被告〔平沼九兵衛〕ヨリ引渡可致口約定致置云々申立ッ
レモ右様ノ義ハ一切無之

又埋立落成ノ上被告〔平沼九兵衛〕ヨリ不引渡云々申立レモ埋立中ハ高野
與七不斷見張且原告〔永山敬三〕ニモ時々見分ニ參リシテ故別段落成ノ義
ハ通知不致トモ可然尤原告〔永山敬三〕於テ右地所渡邊惣右衛門へ讓渡シ
金圓受取タル等ニテモ引渡シタル證據明白ナリ
又道敷ノ義ニ付彼是申立レトモ該地ハ片側ノ地所ニテ奥行二十間
ハ大抵無之場所ニテ千六百坪ノ内ナレハ何レハカ道ノ付クヘキ筈
ニテ尤隣地モ一同道ノ付キタルコト故只官ノ指圖ニ可任モノト心得
被告〔平沼九兵衛〕於テ望ミハ不申立抑原告〔永山敬三〕へ貸地約束ノ節ハ右地内
へ道ヲ付ル義ハ預メ思料不致併シ埋立地へ道ヲ付ル事ハ素ヨリ當
然ノコトナレハ道ノ付ト不付ト共ニ異議無之譯ナリ原告〔永山敬三〕於テモ
道敷ノ生スルハ覺悟ノ義ニ可有之且原告〔永山敬三〕夫婦外兩名罷越シ埋
立地見分ノ際道敷ノ共議ニ及ヒタルヲ以テモ今更被告〔平沼九兵衛〕へ對

シ苦情可申立筋無之モノナリ
 又若林彌兵衛へ貸地ノ義承諾不致被告〔平沼九〕於テ擅ニ貸與シ云々
 申立レ右ハ原告〔永山敬三〕ヨリ貸地證書ヲ被告〔平沼九〕手許ニ取置カサ
 ルヲ幸ヒトシテ被告〔平沼九〕ヨリ差入置タル借地證書ヲ取隠シ今
 更承知不致ト申立ルモノニテ素ヨリ該地ニ家作ノ義ハ原告〔永山敬三〕ノ
 目撃スル處ニ有之然ルニ被告〔平沼九〕ヨリ出訴ニ及フ迄何タル故障
 モ不申立右出訴前副區長高島小八郎且其後原告〔永山敬三〕手許ニ差遣シ
 タル地代計算書ニ右彌兵衛へ貸地料差引相立置タルニテモ全ク協
 議上ヨリ貸借致シタル證據ナリ
 又右地所ノ義ハ旱濕沮洳ニシテ家屋ヲ建設シ人類ノ住居スヘキ地
 ニ非ス云々又埋立タル故地價騰貴云々申立レ右低地ニハ相違無
 之ト雖モ元畑ニテ耕作モ致シタル故水深キ地ニハ非ス且埋立ヲ以

テ地價騰貴ニ相成タル譯ニハ之レナシ
 又被告〔平沼九〕於テ擅ニ他人へ貸與シ且地券ヲ受領シ隨意ニ道ヲ付
 ル等總テ被告〔平沼九〕ハ之レカ爲メ無謂富ヲ得ル云々申立レ右彌
 兵衛借地料并道敷地代ノ義ハ既ニ原告〔永山敬三〕手許ニ差遣シタル計算
 書ハ勿論副區長高島小八郎舊神奈川裁判所等へ差出シタル書面ニ
 モ原告〔永山敬三〕ヨリ被告〔平沼九〕へ可拂入地代ノ内ニ差引相立置タリ尤
 横濱ニテハ道敷ニ相當ノ場所ハ必ス地主埋立人トモ損失ニ相成且
 地券面壹坪ニ付一圓五十錢ノ地價ニ相成タルニ付テハ其百分一
 租上納又區入費等モ差出スヲ故却テ之レカ爲メニ實際損失相立德
 分無之旁以原告〔永山敬三〕於テ無謂損失ヲ致シ被告〔平沼九〕於テ富ヲ得ル
 ト申譯ハ無之モノナリ右ノ次第ニ付原告〔永山敬三〕於テ彼是苦情ヲ唱ヘ
 地代不相拂ハ如何ニモ不條理ノ至ニ付是迄淹滞ノ地代濟方受度旨

申立

依テ判決スル左ノ如シ

第一條

原告〔永山敬三〕於テ明治三年閏十月二十五日十二月二十一日兩度ニテ被告〔平沼九兵衛〕所持ノ地面千六百坪永借ノ契約ヲ爲シタルトモ當時右地面ハ受取ラサリシ趣申立ルト雖モ其契約書ヲ熟閱スルニ現ニ貸借ヲ遂ケシモノニテ後日引渡等ノ事ヲ言ハス而シテ地面ノ名稱縱横ノ間數及坪數共判然記載シ原告〔永山敬三〕ハ其場所ヲ確認シタルモノナレハ當時右地面ハ受取ラスト言フコトヲ得ヌ何トナレハ不動産ハ動産ノ如ク蓄藏シ又ハ運輸スヘキニ非レハ借主貸主ニ對シ借地ノ契約ヲ爲シタル證ト其場所ヲ確認シタル證トヲ以テ借主ハ其借地ヲ受取タルモノト見做サハルヲ得サレハナリ又該地貸借ノ契約ヲ爲

シタルトキ原被告立會實地檢査ニ及ヒ境界ノ標本ヲ打立タルコトハ原告ノ陳述符合スルヲ見レハ是レ該地ヲ受取タル一證ト謂ハサルヘカラス何トナレハ貸借ノ契約ヲ爲シタル后ニ於テ地所引渡ヲ執行スルニ非スシテ其實地ヲ檢査シ其境界ヲ確定スルノ道理アラサレハナリ又原告〔永山敬三〕ヨリ被告〔平沼九兵衛〕ニ托シ該地ノ土功ヲ施サシメタルコト是又既ニ該地ヲ受取タル一證ナルヘシ何トナレハ契約書ニ理立ハ原告〔永山敬三〕ニテ執行スヘキ趣ヲ記載シタリ故ニ被告〔平沼九兵衛〕又ハ他人ニ埋立ヲ爲サシムルコトハ全ク原告〔永山敬三〕權内ニアリテ該地ヲ受取ラサルノ日其土功ヲ施スヘキ順序ニ至ラサレハナリ此三ノ事情ニ因リ該地ハ貸借契約ヲ爲シタルトキ被告〔平沼九兵衛〕ヨリ原告〔永山敬三〕ニ引渡ノ義務ハ盡シタルモノト認メタリ

但シ原告〔永山敬三〕ニ於テ該地ハ被告〔平沼九兵衛〕ニテ埋立ノ上引渡スヘキ

約束ナリシ旨申立ルト雖毫モ證據ナケレハ採用シカタシ

第二條

原告〔敬三〕永山 於テ該地理立ノ成功ハ明治五年三月ナリシニ其後被告〔平沼九兵衛〕ニ於テ埋立地所引渡シテ肯シセサル旨申立ルト雖前條ノ如該地ハ既ニ原告〔敬三〕永山ニ受取タル譯ナレハ埋立ノ事ニ至テハ原告〔敬三〕永山ハ只其成功ヲ検査シ満足ナリト思惟スルニ止マルモノナリ而シテ

原告〔敬三〕永山 ハ明治四年十二月ニ於テ右埋立入費及柵木代金悉皆被告〔平沼九兵衛〕ニ拂ヒ渡シタルヲ見レハ右埋立ノ成功ハ當時原告〔敬三〕永山ニテ満足セシモノト見做サハルヘカラス何トナレハ其未ダ満足ナドト思惟セサル以前其入費悉皆拂渡スヘキノ事理アラサレハナリ

第三條

原告〔敬三〕永山 ニ於テ借地代金可拂ノ義務アラサル旨申立ルト雖モ第一

條ノ如ク貸借ノ契約ヲ爲シタルハ該地受取タル譯ナレハ契約證書記載ノ日ヨリ原告〔敬三〕永山ハ被告〔平沼九兵衛〕ニ對シ契約ノ通り地代金ヲ拂フヘキ義務アルモノトス

第四條

原告〔敬三〕永山 ニ於テ該借地ノ内貳百七十坪被告〔平沼九兵衛〕ノ隨意ニ若林彌兵衛ニ貸渡シ地代金ヲ領收シタルヲ以テ破約ノ一證ニ申立ルト雖

明治七年七月二十八日舊神奈川裁判所ノ判決ヲ受ケタル后右若林彌兵衛取立タル家作ヲ取除タラハ右地面可受取旨被告〔平沼九兵衛〕ニ答ヒ被告〔平沼九兵衛〕ハ明治七年九月ヨリ明治八年七月迄ニ右家作ヲ取除其旨原告〔敬三〕永山ニ報知セシ趣原被告〔平沼九兵衛〕陳述符合スルヲ見レハ原告〔敬三〕永山ハ當時該裁判ニ服シ且ツ家作取除タレハ該地ヲ受取ルヘキ存念ナルモノニ付今日ニ至リ右彌兵衛ニ貸渡地及彌兵衛家作ノ故ヲ以

該地賃借ノ契約ヲ取消スノ口實ニハナラサルモノナリ

第五條

被告〔平沼九〕兵衛〔永山〕敬三ニ於テ前條貳百七拾坪ヲ若林彌兵衛ニ貸渡シタルハ原告〔永山〕敬三ノ承諾ヲ得タル證據ナケレハ右貸渡シノ契約ヲ爲シタル明治五年十一月ヨリ家作取除キテ原告〔永山〕敬三ニ報知セシ明治八年七月迄ノ右貳百七拾坪ニ係ル若林彌兵衛ヨリ受取タル地代金ハ原告〔永山〕敬三ニ償却スヘキモノトス

第六條

原告〔永山〕敬三ハ最初目的ノアルアツテ該地中貳拾間長サ八拾間ヲ借用セシニ右地所中央ニ丁字ノ如ク道敷相開キ且夫レカ爲メ該地ノ内貳百三拾坪余減步致シ最初ノ目的相違シタルヲ以テ被告〔平沼九〕兵衛ニ對シ該賃借ノ契約ヲ取消サンコトヲ請求スルハ道理アルモノトス

ホ

但原告〔永山〕敬三ニ於テ本文道敷云々ヲ以テ破約ノ證トナシタルハ明治八年九月三日舊神奈川裁判所ニ差出タル上申書中初メテ記載アルニ付右道敷ノ故ヲ以テ該契約ノ取消ヲ訴ヒタルハ右九月三日ナリトス

第七條

被告〔平沼九〕兵衛ニ於テ該埋立地ニ道敷相除クコトハ素ヨリ原告〔永山〕敬三承知可有之旨申立ルト雖モ最初ヨリ原告〔永山〕敬三ノ了知セシ證據無之又被告〔平沼九〕兵衛ヨリ之ヲ告知シタルコト無之又原被告立會道敷見分致シタル旨種々申立アリト雖モ都テ證據ナケレハ採用シカタクシ而シテ被告〔平沼九〕兵衛ハ最初ヨリ道敷ヲ除クコトヲ熟知シ既ニ明治四年四月ニ於テ道敷地割ヲ縣廳ニ願出タルヲ見レハ原告〔永山〕敬三ヨリ右道敷ノ故ヲ以テ契約取消ノ請求ヲ被告〔平沼九〕兵衛ニ於テ抗拒スルノ權利ナキモノトス

第八條

被告〔平沼九兵衛〕ハ明治三年六月ニ於テ該地其他ノ地所共ニ埋立町並地ニナサンコトヲ縣廳ニ願出許可ヲ得タルモノニシテ原告〔永山敬三〕又ハ其他ニ埋立引受ノ借主ナキトキハ被告〔平沼九兵衛〕自ラ埋立ノ心得ナリシ旨申立ルヲ見レハ該地ノ埋立ハ被告〔平沼九兵衛〕ノ素志ナリシナリ而シテ原告〔永山敬三〕ノ之ヲ引受ケタルハ貸借ノ契約ニ付帶セルモノニテ永シ其利益ヲ得ンカ爲メナリ然ルニ右道敷ノ故ヲ以テ其契約ヲ取消スルハ右埋立ノ事業ハ最初ニ復シ被告〔平沼九兵衛〕自ラ爲シタリト異ナルコトク其利益ハ一齊ニ被告〔平沼九兵衛〕ニ歸スルモノナレハ原告〔永山敬三〕ニ對シ其埋立入費ヲ拂ヒ渡スヘキ義務ヲ生スルモノトス

第九條

前條々ノ理由ナルニ付キ明治三年閏十月二十五日十二月三十一日

大審院ニ於テ

原告代人 赤羽程三上告ノ要旨 明治十年五月十二日

第一條

東京上等候裁判所ノ判文第六條ニ曰ク原告ハ最初目的ノアルアリテ

ニ於テ原被ノ取結タル地所貸借ノ契約ヲ取消シ明治三年閏十月二十五日ヨリ明治七年九月二日迄ノ千坪地代及明治三年十二月二十一日ヨリ明治七年九月二日迄ノ六百坪地代ハ原告〔永山敬三〕ヨリ被告〔平沼九兵衛〕ニ可受取又原告〔永山敬三〕ヨリ被告〔平沼九兵衛〕ニ渡シタル敷金埋立金ハ明治七年九月三日ヨリ法律上ノ息金ヲ加ヒ及明治五年十一月ヨリ明治八年七月迄若林彌兵衛ヨリ被告〔平沼九兵衛〕ニ受取タル地代金ハ被告〔平沼九兵衛〕ヨリ原告〔永山敬三〕ニ可受取仍テ雙方差引勘定可致モトノ可相心得事 明治十年三月十六日

地所借用セシニ中央ニ丁字ノ如ク道敷相開キ且夫レカ爲メ貳百三拾坪餘減少致シ最初ノ目的相違シタルヲ以テ契約取消ヲ請求スルハ道理アルモノトストアレモ横濱ニ於テ町並埋立地へ隣町近郷ノ線路ヲ商置シ其位地ヲ定メ道路ヲ設クルヤ最モ官ノ處分ニ係レハ人民ノ私シニ爲ヌヲ得サルコトハ一般ノ成規ニシテ普ク管民ノ了知スル處ナリ然而シテ甲第一號乃チ明治三年閏十月付借地證書中町並拜借地ノ明文アレハ被告ニ於テ道敷ヲ除クヘキコトヲ承知セシト謂ヘシ何トナレハ原契約ノ際該地ノ土取掘割私ニシテ採用相成サルヨリ官ノ制規ニ隨フヲ以テ許可セラル、ノ趣及ヒ埋立成功次第檢地出願ス可キ請書等ニ至ル迄被告ニ於テ承知セシヲ以テナリ然ルニ前文ノ如ク目的相違シタルヲ以テ契約取消ヲ請求スルハ道理アルモノト判決セラレシハ不法ノ裁判ナリト思考ス又同判文但

書ニ曰ク原告ニ於テ本文道敷云々ヲ以テ破約ノ證トナシタルハ明治七年九月三日舊神奈川裁判所ニ差出シタル上申書中初メテ記載アルニ付右道敷ノ故ヲ以テ該契約ノ取消ヲ訴ヘタルハ右九月三日ナリトストアレトモ該上申書ハ東京上等裁判所ニ於テ會テ一見セシコトナク且一應ノ審問モナク突然判文ニ掲載セラレハ何事ソヤ尤該上申書ハ被告奸知ノ巧言ニ出タルモノニシテ其効ナキモノナリ何トナレハ眞ニ道敷減歩ノ故ヲ以テ目的相違トセハ明治六年五月中被告ヨリ舊神奈川裁判所へ出訴ノ節其旨主張スヘキ筈ナルニ會テ夫等ノ陳述無シシテ只管地券ノミヲ請求セリ其後原告ヨリ地代淹滞ヲ訴ヘタルニ付其督促ヲ免ソコトヲ謀リテ上申セシモノナレハナリ加之明治七年五月二十三日實地立會セシ事ハ東京上等裁判所ニ於テ原被告口供符合及ヒ乙第五七兩號ノ如ク原被連署シテ舊神

奈川裁判所へ上申シタルヲ見ルモ被告ニ於テ道敷ノ事ハ疾ク承諾
 セシ確證ナリ又論所地割ノ標杭ヲ打立タルハ明治四年四月中ナリ
 而シテ被告ニ於テハ明治七年八月二十五日ヲ以テ地割發見セシ旨
 申立ルハ不都合ノ陳述ト云ヘシ何トナレハ右明治四年四月ヨリ明
 治七年八月迄ハ稍々四十年ノ歳霜ヲ經過セシ故地割ノ標杭既ニ腐
 朽ニ及ヒタレハナリ又假リニ被告ノ陳スル如クスルモ該埋立落成
 ナ認メシハ明治五年三月ナリトス然レハ則チ其境界チモ亦確認セ
 サルヘカラス此際最モ地割標杭現然タリ之レ固ヨリ承諾ノ上ニア
 ラスハ尺地ト雖モ何ソ不問ニ措クコトヲ得可シヤ右ノ如ク被告ニ
 於テハ明治七年八月二十五日以前ヨリ地割道敷ノコトヲ承諾セシ
 明カナルニ東京上等裁判所ニ於テ之レヲ默過セラレ被告一己ノ口
 實ヲ採用シテ明治七年九月三日ノ上申書ヲ以テ破約ノ證トセラレ

タルハ不法ノ裁判ナリト思考セリ

第二條

同判文第七條ニ曰ク最初ヨリ原告ノ了知セシ證據之レナク被告ヨ
 リ之ヲ告知シタルヲ無之而シテ被告ハ初メヨリ熟知シ縣廳ニ出願
 スルヲ見レハ契約取消ノ請求ヲ被告ニ於テ抗拒スルノ權利ナキモ
 ノトストアレトモ最初ヨリ被告ノ承知無シト云ヘカラス何トナレ
 ハ甲第一號乃チ明治三年閏十月付借地證文ニ據リ町並拜借地ナル
 コトハ明了ナリ然ラハ道敷ヲ除ク等ノ明文無之モ道敷ヲ除クト除カ
 サルトハ固ヨリ官ノ制規ニ隨ハサルヲ得サルナリ加之被告ハ當時
 該縣租稅課奉職中ニシテ其實理由ヲ知ラサルナシ又該地ニ道敷ノ
 生セシハ明治四年ノ四月ナリ而シテ前條但書ノ如ク道敷發見ヲ明
 治七年九月三日ナリトセハ何ソ告知ナクシテ斯ル年月間消スルノ

理アランヤ又判文ニ都テ證據ナケレハ採用セストアル上ハ被告ノ
奸計ヨリ出セシ明治七年九月三日付被告一己ノ上申書モ亦證據
ナクニ足ラサルヘシ然ルニ前願ノ如ク判決セラレタルハ不法ノ裁
判ト思考セリ

第三條

同判文第八條ニ曰ク被告ハ該地ヲ埋立町並地ニナサン事ヲ縣廳ニ
願出許可ヲ得タルモノニシテ埋立ハ被告ノ素志ナリ而シテ原告ハ
貸借ノ契約ニ付帶セルモノニシテ永ク其利ヲ得ンカ爲ナリ然ルニ
契約ヲ取消ストキハ埋立ノ事業最初ニ復シ被告ノ自ラ爲シタルト
異ナラス其利ハ一齊ニ被告ニ歸シ其埋立入費ヲ原告ニ拂ヒ渡スヘ
キ義務ヲ生スルモノトストアレト埋立ノ素志ハ敢テ原被ノ區別之
レアルヘカラス甲第一號乃チ明治三年閏十月付ノ證書ニ於テ被告

ノ素志現然タリ然ルニ該地ノ景況漸次衰微シ其利益無之ヨリ埋立
入費ノ返戻ヲ請求スル譬ハ器物ノ製作ヲ工人ニ托シ已ニ成功ノ
後チ無用ニ屬スルニ迷ンテ器物ヲ還却シ其價ヒチ徵收スルニ異ナ
ラス工人何ソ肯センヤ又明治五年八月渡邊總右衛門ナル者へ被告
ヨリ賣却シタルモ同様ノ地ニシテ既ニ其節地主タル原告本人ノ與
書チモ今ニ消印無ク埋地所有ノ特權ハ被告ニ於テ稍ヤ亡失セシモ
ノ、如クナリ然ルニ前記ノ如ク埋立入費ハ被告ニ拂渡スヘキ旨ノ
判決ハ不法ナリト思考セリ

第四條

同判文第九條ニ曰ク被告ニ渡シタル敷金及ヒ埋立金ハ明治七年九
月三日ヨリ法律上ノ息金ヲ加ヘ雙方差引勘定可致云ヤトアレトモ
右埋立入費ハ素ヨリ土功ニ消滅セシ金額ニシテ貸借金ト同視スヘ

カラス然ルニ法律上ノ息金ヲ加ヘシムルハ何レノ點ヨリ出ルモノ
 乎更ニ了解シ難シ且明治七年九月三日ヨリ差引勘定可致トアレハ
 假リニ之レヲ定ムルモ明治七年九月三日ヲ以テ該地ハ悉皆九兵衛
 ノ所有ト見做サ、ルヲ得ス而シテ同判文中ニ明治五年十一月ヨリ
 明治八年七月迄若林彌兵衛ヨリ受取リタル地代金拂フヘシトアリ
 然レモ右明治七年九月三日ヨリ拂フヘキ理由會テ無之若裁判狀ノ
 如クセハ殆ト一年間二重ニ拂フヘキ譯ナリ故ニ不法ノ裁判ナリト
 思考セリ

右各條ニ陳述スル如ク東京上等裁判所ノ裁判ヲ不法トナシテ破毀
 アラシコトヲ請フ

被告代人 牧三鼎答辨ノ要旨 明治十一年 五月廿七日

第一條

上告狀原告ノ陳述ニ横濱ニ於テ町並埋立地ニ隣町近郷ノ線路ヲ商
 量シ其位置ヲ定メ道路ヲ設クルヤ最モ官ノ處分ニ係ルハ人民ノ私
 シニ爲ヌヲ得サル云々申立レトモ抑該契約ノ起因タル去明治三年
 閏十月二十五日原告ノ所有地千坪借受ノ契約ヲナセリ然ルニ他目
 的ノアルアツテ更ニ明治三年十二月二十一日ニ於テ又六百坪地借
 受ノ契約ヲ遂ク初メテ目的タル一地乃チ千六百坪ヲ借了セリ因テ
 該地理立ノ事ヲ被告ニ托シタリ而シテ明治五年三月中埋立落成ヲ
 認メタルニ此詞訟等ノ事故ニ當リ未ダ目的ヲ達スルヲ得ス然ル后事
 ニ因リ原告ト連携シ該地ニ至リ始メテ中央ニ丁字形ノ道線ヲ畫シ
 タルヲ認メ最初目的ト相反スルヲ知得タルナリ故ニ條首ニ寫ス原
 告ノ開陳ノ如キハ原告ト縣廳トノ直接間ニ預ル者ニシテ縣廳ト間
 接ナル被告ノ預ル處ニ非ヌ被告ハ獨リ千六百坪地借契約アル而已

其證ノ如キハ原告ト直接ノ真意ヲ寫シ成セル該件最貴ノ物ニシテ其目的トスル所ハ一連千六百坪タリ然ルニ原告官命ニ據ルト據ラサルヲ問ハズ被告ノ明許ヲ得ス漫ニ專斷シテ道線ヲ丁字形ニ旋シ書シテ三地トナス況ンヤ之レカ爲メ貳百有餘坪ノ坪數ヲ減消シ到底被告ノ目的ヲシテ達セサラシムルニ至レリ是レ當時解約ヲ求ムル所以ナリ

第二條

原告ニ於テ借地證文ニ道敷ヲ除ク等ノ明文無之モ町並拜借地ナルヲ明カナレハ道敷ヲ除クト除カサルトハ固ヨリ官ノ制規ニ隨ハサルヲ得サル云々陳述スレトモ頗ル契約ノ大意ヲ失セリ其譯ハ前第一條ニ述ル如ク曩ニ千坪地借ノ契約ヲナシ他目的アル在テ更ニ千坪ノ地ニ添フテ六百坪地ヲ増借シ初メテ一地千六百坪トナレリ而

シテ土功漸ヤ落シ目的ノ達セシ比ナヒ縱令官命ト雖モ專斷ニ道線ヲ畫シ多少坪數ヲ減却シ分ツテ三地ト爲シ到底被告ノ目的ヲ遮殺シ達セシメサルニ至ル豈目的ヲ空クセラレ無用ノ地ヲ借リ置クノ謂レアラシヤ故ニ該契約ハ廢毀スヘキ物トス然ルニ條首ニ寫ス如ク原告ニ於テ町並拜借等ノ字ニ據リ其廢毀ヲ抗拒スルモ借地證書乃チ甲第一號中確然見付畑長五拾間巾二拾間此坪數千坪ト明記セリ何ッ土功ヲ了シ道線ヲ畫シ多少坪數ヲ減スルヲ豫知シナカラ確然未定ノ坪數ヲ明記スルノ理アラシヤ是等ノ如キ乃チ原告ノ町並拜借ノ四字ニ附會セル巧言ナルヲ知ルノ證左トスヘキモノナリ

第三條

原告ニ於テ明治五年八月渡邊總右衛門ニ被告ヨリ賣却シタルモ同様云々陳述スレトモ被告ト渡邊總右衛門ト契約ヲ取結ヒタル頃ハ

該地ニ丁字形ノ道線ヲ開キシヲ認メサル以前ニ有之故ニ今般原告ニ於テ謂ヘキコトニ非ス若夫レ一朝該地引渡スヘキ時ニ際シ不都合無之以上ハ未ダ原告ノ口外シ得ヘキコトニアラサルナリ

第四條

第一款 原告ニ於テ右埋立入費ハ素ヨリ土功ニ消滅セシ金額ニシテ貸借金ト一視ス可ラス然ルニ律法上ノ息金ヲ加ヘシムルハ何ノ點ニリ云々ト陳述スレトモ抑モ法律上ノ息金生質タル獨リ貸借上ニ止マルニ非ス或ハ職人手間代金或ハ立替金等ト雖モ引渡スヘキ義務アツテ之ヲ怠ル時一方ノ請求ニ據リ生來スル者タリ然ラハ該埋立金ノ如キモ契約ヲ廢毀シ引渡スヘキノ日ヨ當テハ生質立替金ト殆ト成立チ近フス故ニ一方ノ請求ニヨリ息金ヲ生スルハ至當ノトト云ヘシ

第二款 原告ニ於テ七年九月三日ヨリ拂フヘキ理由曾テ無之若シ裁許狀ノ如クセハ拂フ殆ト一ケ年間二重ニ成リ云々陳述スレトモ判文中明治五年十一月ヨリ明治八年七月迄若林彌兵衛ヨリ被告ニ受取タル地代金ハ被告ヨリ原告ニ受取トノ文意ハ上ノ契約廢毀ノ日乃チ九月二日ト下ノ雙方差引勘定可致トノ文言ニ照應シ明治五年十一月ヨリ明治七年七月迄若林彌兵衛ヨリ被告ニ受取タル地代金ハ該契約廢毀ノ日乃チ明治七年九月二日以後ノ分ハ雙方差引勘定可致云々ト義解スヘシ然ラハ原告ノ謂ヘル一ケ年間二重云々ハ大ヒコ該文ノ照應點ヲ失シ其義解ヲ誤マレルモノト云ヘシ

辨明

上告ノ主點ハ左ノ二項ニ在リトス

第一項 遺敷ノ開ケシニヨリ前約ヲ取消スヘシト裁判シタルヲ不

法トスル事

第二項 埋立ハ貸借ノ契約ニ附帶スヘシト裁判シタルヲ不法トスル事

第一條

甲第一號地受證ヲ閱スルニ貴殿所持ノ内町並地ニ御拜借相成書面ノ通坪數畑地ノ儘借受我等方ニテ埋立申處實正也御地代ノ儀ハ壹坪ニ付銀五分ツ、毎月二十七日限急度相納可申候且又町並ノ御地代御取立ニ相成候節ハ増地代トシテ相納可申候若相滯候節ハ御地所御引上ケ可被成候トアリ抑原告平沼九兵衛ニ於テ貳萬貳千坪餘町並ニ爲スヘキ目的ニテ借地埋立ノ許可ヲ得タルモノニシテ其内千六百坪ヲ被告永山敬三カ借受ケルニ該甲第一號ノ如キ證書ヲ差入レタル其文中ニ土地ノ盛衰ニ應シ地代増減可被成候其節異論申

第二條

間敷候并ニ町法渡世等ノ規則ノ儀ハ萬端貴殿御差配次第聊和書申間舖トアルヲ以テ視レハ町並地ノ儀ハ最初ヨリ得心タルト判然タリ既ニ町並地タルニ於テハ孰レノ地内ニ歟道舖ノ生スルハ各々覺悟スヘキ筋ナリトス然リ而シテ縣廳處分ニ因リ永山敬三ノ借地内ニ公道ノ及ヒシハ敬三ノ不幸ト云ヘクモ之ヲ拒ムノ權利アルトナケレハ敬三於テハ管地代金ノ道敷ニ係ル分ヲ除キ其餘ヲ拂フヘシト云ハ格別道敷ノ生セシヲ以テ分借ノ契約ヲ取消スヘキ條理ナキモノトス如此筋ナルニ既ニ東京上等裁判所ハ借地ノ引渡シハ受ケタルモノト判定シナカラ道敷ノ開ケタルニ由リ目的相違スルヲ以テ被告ニ對シ該貸借ノ契約ヲ取消サンコトヲ請求スルハ道理アルモノト裁判シタルハ前後一定セサル不都合ノ裁判ナリトス

前條ニ掲ル甲第一號地受證ニ貴殿所持ノ内町並地ニ御拜借相成書
 面ノ通坪數畑地ノ儘借受我等方ニテ埋立申處實正也乙第九號乃チ
 被告ノ提供スル明治三庚午十二月二十一日附敷金證書ニ埋立ノ儀
 ハ貴殿方ニテ御出金被成候テ家作補理ニ相成候共差支無之候トア
 ルヲ以テ視レハ甲第一號證ニテ埋立ハ貸借ニ附帶セサルヲ明瞭ナ
 リ然シテ是ノ九號證ニ至リ初テ埋立ニ對シ出金ノヲ云ヘルヲ以
 テスレハ永山敬三カ埋立ヲ爲スヘキモノヲシテ我便宜ヲ量リ平沼
 九兵衛ヘ托シタル筋ナレハ其入費ヲ永山敬三カ拂ヒタルト雖モ永
 山敬三カ自ラ埋立ヲ成シタルモ同意ナリ然ルチ東京上等裁判所ニ
 於テ埋立ハ貸借ニ附帶シタルモノトシ埋立入費ヲ平沼九兵衛ヨリ
 永山敬三ヘ拂ヒ返スヘシト裁判シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

前條ノ理由ナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ大審院ニ
 於テ裁判スルヲ如左
 道敷ノ生スルハ當然ナルニ由リ是カ爲メニ前約ヲ取消スヘキ筋無キ
 モントス
 埋立ハ貸借ニ附帶シタルモノニ非ストス
 明治五年十一月ヨリ明治八年七月迄若林彌兵衛ヨリ原告ヘ受取タル
 地代金ハ被告ヘ可渡者トス

第四百拾貳號

○山地爭論一件上告ノ判文明治十一年九月十一日上告
 明治十一年九月十三日申渡

原告

新潟縣第二十大區小三

區越後國蒲原郡鎌倉新

田

右總代人 同村平民

西村源之十
野口竹次郎

被告

新潟縣第十八大區小五
區越後國蒲原郡湯川村
平民

小畑藤太郎

東京上等裁判所ノ判文

山地論合ノ一件新潟裁判所ノ裁判不服ノ趣ヲ以及控訴次第吟味ヲ
遂ル處

原告訴ル要領最初ノ主意ハ控訴狀ニ述タル如クナリシカ審理中被
告ニ於テ第一ノ證據トスル文化文政兩度ノ證書

本文文化度證書左ノ如シ

内濟爲取替證文ノ事

一御料湯川村ヨリ申出候ハ先年山論四個村進退色分ケ立會内熟
後村々ニテ境通萱場ハ不及申焼畑等開墾地狹ニ相成村方必至ト
行詰及迷惑ニ候由境通不明ノ場所引上ケ申度旨申立候得共新
發田御領鎌倉新田ニテハ先年極通色分ケノ外萱場ハ勿論焼畑等
決テ手指不申段申居何分内濟不仕品ニ寄江戸出府ト相成候テハ
此上御上機御苦勞奉忍入其下タ聊ノ義申募リ莫太ノ諸雜用相掛
後日ニ後悔可仕哉ニ付雙方篤ト申談取扱兩人へ申分貰受内熟濟
口左ノ通

一鎌倉新田進退持來ノ由宇水筋山ノ儀全體湯川村分ノ内へ飛地
ニテ古來ヨリ持來リト申ハ不分明ニ付山ノ義ハ取履兩人へ引上

ケ湯川村へ相渡尤右ノ場所澤ニ畑方有之色分ケノ分ハ其人是迄ノ通持分ニ居置可申極ノ事

一同村ニテ字蘆ケ澤ト申處一圓湯川村繪圖面色分ケノ場所徒開畑方數ケ所有之候此分ハ顯然ノ義ニ候間取扱兩人へ引上ケ湯川村へ相渡候極ノ事

一字北ノ谷水筋澤櫻澤山境ノ義兩付繪圖面色分ケノ通立會中央ニ進退場山境相極以來申分聊無御座候事

一字大猿ケ澤小猿ケ澤ノ義兩村是マテ進退ノ儘居置極ノ事

一同村ニテ山場ノ内古來ヨリ持來ノ分御領主様へ銀匁上納モ不仕湯川村へモ不相納自由ノ進退仕居候場所モ相見へ候間右ノ分ハ全ク湯川村地元候間此分ハ銀八匁ツ、鎌倉新田ニテ配分取立湯川村へ此末年々相納可申極ノ事

一御料湯川村山大境際先年通御私領横川濱村小向村ヨリ入會ノ場所銀匁上納仕候間鎌倉新田ニテ右ノ場所差支申間敷事

右ノ通雙方納得和融仕候處相違無御座候然ル上ハ後年ニ至ルマテ聊申分少モ無御座候畢竟御取履ヲ以相片付一同安堵仕候萬萬一心得違ノ者有之以後何廉ト申出候モ有之候ハ、其段被仰立如何様共御咎メ可仰蒙候依之雙方總代以連印ヲ内熟濟口證文差出申處依テ如件

出雲崎御支配所

湯川村

百姓代

文化二丑年閏八月

同 斷

嘉 之 助 印

宇 八印

同斷

彦右衛門印

組頭

仙 助印

同斷

六右衛門印

同斷庄屋

平右衛門印

新發田御領

鎌倉新田

百姓代

傳右衛門印

同斷

與平次印

同斷組頭

助右衛門印

同村名主

周平次印

右同斷

九十郎印

鎌倉新田

古田仙藏殿

前書ノ通濟口證文差出候下、於後年雙方少申分無之内熟相調

候ニ付右連印書付爲後年御渡シ申候依テ如件

新發田領

鎌倉新田

仙藏

文化二丑年閏八月

出雲崎御支配所

湯川村

安龍寺

新發田御領

鎌倉新田

名主

九十郎殿

同斷

周平次殿

組頭

助右衛門殿

總御百姓中

本文文政度證書左ノ如シ

山方規定一札ノ事

一湯川村鎌倉新田ノ義先年新發田御一領ニ御座候處寛政年中湯川村御上知ニ罷成鎌倉新田元形御私領ニ御座候得共往古湯川村山内鎌倉新田ニテ銘々進退罷在候處去ル文化元子年及爭論ニ同二丑年取廢ヲ以致熟談山手銀鎌倉新田ヨリ湯川村へ相納所持仕來候得共其節立會山境取極メ候モノ退々退役或ハ死失候ニ付若シ後年ニ至リ内濟ノ始末不辨ノ者有之彼是申爭等出來候テモ一

村同様ノ場所殊ニ先年御一領ノ處當時湯川村御料所ニ相成候テ
モ右御領主様へ對シ不本意ノ儀ニ付此度實意ヲ以兩村及眞熟向
後境目等違亂無之ヲ取極メ左ノ通

鎌倉新田

當時持主

字清水ケ入

半藏

同

利右衛門

字鳥打ハ
ケロキカ入

利兵衛

字鳥上石
鳥上石

茂八

字清水ケ入

權太郎

字小瀧ケ入

由兵衛
嘉四郎

字コノ出ケ澤

與平次

字カヤ森
森

源之丞

字カヤ森

彌藏

字七曲

伊之助

字鳥打場

五兵衛

字八丁坂

四兵衛

字鳥上石

利之助

字コノ出ケ澤

嘉之助

外進退仕來ノ通りハ勿論山直銀ノ儀ハ去ル丑年及熟談一个
年ニ付上銀八匁ツ、御私領鎌倉新田ヨリ御料湯川村へ相納
來候上ハ此度別段山直銀差出不及候

右个所ハ湯川村地内山林開畑古來ヨリ鎌倉新田ニテ銘々進退致

罷在文化丑年內濟ノ節モ右姿ヲ以夫々取極メ年々上銀入ヌツ、
 鎌倉新田役元ヨリ湯川村役元へ無滞相納地面ハ其砌兩村立會ノ
 上境相改繪圖面爲取交是迄無差支所持致來候得共尙又此度及眞
 熟名持ニ不拘鎌倉新田一村抱持地ニ相極メ候上ハ勿論右場所ニ
 付地元村方ニテ聊故障申間敷候積リ相極メ然ル上ハ此末持主相
 替リ候テモ其時々所持致シ候モノヨリ鎌倉新田名主方ニテ山直
 銀取立湯川村役元へ永々無相違相納可申極之事
 右ノ通此度兩村申合至極納得ノ上村役人長百姓一同立會尙又境
 目等相改山方規定致候處相違無御座候然ル上ハ後年ニ至リ右山
 ノ義ニ付兩村共彼是申分仕間敷候萬一心得違ヲ以何廉ト申立候
 者有之候ハ、何様不埒ニモ可被申立積リ相極メ候依之爲後日兩
 村々役人長百姓連印規定一札仍テ如件

出雲崎御支配所

湯川村

庄屋

平右衛門印

同村

組頭

六右衛門印

同村

百姓代

彦右衛門印

同村

同斷

文政二卯年九月

淺右衛門印
佐平太印
嘉之助印

新發田御領分

鎌倉新田
名主

九右衛門印

同村

組頭

間右衛門印

同村

百姓總代

與平次印

同村

小前總代

半藏印

右同斷

甚次郎印

湯川村

林七印

同村

取暖人 善右衛門印

鎌倉新田

間右衛門印

熟談極書

本文熟談極書寫左ノ如シ

山出入御取履ニ付雙方内熟仕極書一札ノ事

一湯川村ニテ申出候ハ矢代田村天ヶ澤新田鎌倉新田右三ヶ村ニ
 テ當村支配山ノ内退々徒開致作付村方迷惑ニ付御受地ニ致度旨
 願出候尤古來山境ノ義北ハ千貫石ヨリ三方口マテ東ハ千貫石ヨ
 リ赤坂山護摩堂山峯續大境ノ由元祿年中御料菅澤村椎谷領橋田
 村ト山出入及公訴ニ候節右境通リ御裁許ニテ相片付候上ハ大境
 内當村分ニ紛無御座候全体元祿年中出入ハ當村ノモノ大澤肯澤
 ニテ大木ヲ伐取候ヨリ事起リ候然ル處右ノ場所三个村ニテ古來
 ヨリ持來ト申義甚難心得候彌其以前ヨリ持來リ候ハ、其節出入

相手方重ニ相成可申處左モ無之當村ニテ御公義御裁許ヲ受儘成
 證據モ有之其上外村々ヨリ段々山入モ御座候ハ、不殘當村山入
 ノ譯ニ相成居候趣申之矢代田村天ヶ澤新田ニテハ徒開ト申義一
 切無御座往古ヨリ持來山畑ニテ既ニ矢代田村當時作付山畑ノ内
 延享年中小前帳ニモ書載字等相分ケ御收納相勤候分モ有之其
 分ハ山畑銀上納致銘々持來ノ場所ニ御座候鎌田新田ノ義山直
 銀計ニテ山畑銀上納不仕候得共延享年中迄地位相居候山畑ハ誰
 開ト申ス名目ニテ小前帳ニ相詰御收納相勤其餘地位相劣候分ハ
 山畑銀上納仕度旨其砌願書差上置候ハ、御受地モ同様ニ御座候
 天ヶ澤新田ノ義ハ山畑銀山直銀致上納是又往古ヨリ作付野山共
 進退致來候湯川村ヨリ元祿年中御裁許ノ山境ヲ以テ三ヶ村持來
 分共一體湯川山ノ譯申掛ケ候ハ、其節ハ内々申合等ニテ湯川村

田上村御他領相手ニ致シ候哉右出入中内雜用三ヶ月ヨリ湯川村
 へ相納候受取書所持致居候へハ右繪圖面ニ三ヶ村山境相除候テ
 モ開發以來ヨリ持來場所無相違御座候既ニ鎌倉新田天ヶ澤新田
 ノ義古來ハ湯川村ヨリ相分リ候新田ニテ田畑野山共持越ニ致シ
 慶安明曆ノ頃一村立ニ和成候由申傳候其後一體湯川山ト申譯湯
 川村ニ於テモ證據有之間敷旨申之其下々雙方段々申分有之及出
 入候處此度御取暖ニ付左ノ通内熟仕候御事

一元祿年中御他領山出入御裁許繪圖面ニテハ一體湯川山ノ譯ニ
 相見候へヒ段々相糺候處其以前ヨリ山畑野山共三ヶ村持居候
 場所モ有之候其砌ハ如何様ノ申合等有之三ヶ村出入相手村相除
 候哉年來ノ事故相分リ不申候尤此度出入場所各方并ニ雙方立會
 見分致候處境通り古來ヨリ相居候定規モ無之區々ノ申分ニテ相

分可申場所モ有之候事故矢代田村天ヶ澤新田鎌倉新田三ヶ村ニ
 テ是迄進退持來候山畑ノ内四町八反步湯川村へ差遣候譯乍併地
 所ニテ引分候テハ雙方差支ノ筋モ有之候ニ付三ヶ村ヨリ金廿兩
 湯川村へ相渡候譯尤右四町八反步ノ地所湯川村地元ノ譯ニ候へ
 比内熟ニテ三个村ヨリ金子差出シ三个村へ地所引取候上ハ後年
 迄モ地元ノ謂テ以場所等ノ境分ケ湯川村ヨリ決シテ不申出右地
 所ハ三个村自由進退致可申極尤其三个村持分山畑野山共此度
 立會繪圖面ニ相記候場所是迄ノ通地元三个村ト猶又稔ト相定
 候上ハ山直銀山畑銀雙方共是迄ノ通上納可致候依テ外ヨリ何ノ
 差障リモ無之湯川村ニテ右四町八反步ノ地元ニ相拘リ永久何廉
 申分少モ無御座雙方四箇村名主組頭總百姓一同納得ノ上内熟
 相極申候

右、私共四箇村山論一件此度各方取陵被仰付場所立會見分ノ上
 前々ヨリ雙方申分御紀ノ上前書ノ四ヶ村一同納得ノ上内濟相極
 候處毛頭相違無御座候然ル上、御山一件ニ付末々共異亂仕間敷
 候仍テ爲後證雙方連印立會繪圖相仕立差上候處相違無御座候以
 上
 嘉茂組
 湯川村
 百姓總代
 八印
 助印
 六右衛門印
 市助印

寛政二戌年七月

仁兵衛印

新津組

鎌倉新田

百姓總代

儀藏印

右同斷

丈八印

右同斷

茂右衛門印

同村

組頭

間右衛門印

同村

名主

平右衛門印

同組天夕澤新田

百姓總代

五郎八印

同村同斷

孫右衛門印

右同斷

權之丞印

同村

組頭

兵九郎印

同村

名主

嘉右衛門印

同組

矢代田村

百姓總代

治右衛門印

右同斷

五右衛門印

右同斷

兵四郎印

同村

組頭

利 助印

同村

同斷

十右衛門印

同村

名主

伊 兵衛印

名主

與右衛門殿

名主

助之丞殿

右山出入一件拙者共取暖候處前書ノ通リ内濟相片付候ニ付爲後
證致加印候處依々如件

赤澁組戸石新田

名主

取暖人

助之丞印

戌七月

小須戸組小須戸町

名主

同

與右衛門印

矢代田村

名主

伊兵衛殿

組頭

百姓中

天ヶ澤新田

名主

嘉右衛門殿

組頭

百姓中

鎌倉新田

名主

平右衛門殿

組頭
百姓中

共逐條綴密ニ吟味スレハ一トシテ原告鎌倉新田ノ全山地へ關シタル紛争ヲ定メタル者ニ非ス專ラ寛政二年内熟極書前ニ載スル處ノ他領大境邊ニ限リタルヲ無相違然則原告山地ハ開發以來全然無事局外ニ中立シタリシヲ疑フ容ルハノ地ナキヲ發明シタル趣意ハ明治九年十二月九日明治九年十二月十四日ニ陳述書及ヒ口書願書ヲ以テ詳細申立タル通りニ有之元來本訴ノ論地ハ湯川山ノ中ニ基布散在セル畑林萱場等ニテ之ヲ合スルキハ反別凡廿町步餘モ有之原告村方ノモノ往古ヨリ進退シ來リタルヲハ數通ノ買得證券及ヒ山直銀上納割付書等現存シ在リ實際ノ事務ハ勿論原告村ニ於テ取扱來リ既ニ被告村方ノ者論地ヲ賣買セシ時モ原告村更其證書ニ與書

承印シ來リタル成規等原告村ニ論地進退ノ權利ヲ有セシ歷然タル
證據ニテ敢テ他ノ證書等ニ牽強附會シ地所進退ノ權利ヲ爭フニ及
ハサルヘシ然リト雖被告ノ證據トシテ呈スル處ノ諸證書ハ彼等其
見解ヲ誤リ或ハ本件ニ關涉セサルモノ或ハ間接ノ證據ヲ以直接緊
要ノ書類ト誤認スルヲ逐一辨駁セサルヲ得ス第一元祿四年舊幕府
裁許繪圖ヲ以テ古來ヨリ湯川山中ニ於テ原告鎌倉新田ノ山林田畝
ヲ有セカリシ證據ナル旨申立レモ其繪圖タル被告湯川村ト橋田村
外ニケ村トノ爭訟ヲ判決セラレタルモノニテ原告村方ノ係ル處ニ
アラサレハ敢テ辨駁ヲ要セサルヘシト省略シ被告ノ第二證據トスル
寛政二年ノ割附面

本文割付面寫左ノ如シ

戌御年貢可納割付之事

斗代入定免

越後國蒲原郡

一高貳百七拾八石

湯川村

此現石百廿九石九斗六升壹合

此譯

田現石百拾石六斗八升四合七夕

内

貳石七斗九升五合四夕

前々川欠年々引定當引

壹石壹斗七升壹合五夕

未ヨリ亥迄五ケ年休地引

小以

三石九斗六升六合九夕

殘

現石百六石七斗壹升七合八夕

畑現石拾九石貳斗七升六合三夕

内

七斗八升壹合

前々川欠年々引定當引

殘

現石拾八石四斗九升五合三夕

取米合百廿五石貳斗壹升三合壹夕

外

一畑壹町半三拾貳步三尺

定見取

此取米八斗四升四合三夕

一山畑壹反六畝七步三尺

定見取

此取米六升八合五夕

一米四升三合

山直米

掛米百貳拾六石壹斗六升八合九夕

一米三石七斗八升五合

口米

掛米百貳拾五石貳斗壹升三合壹夕

一銀百廿五匁貳分壹厘

夫銀

一銀六匁七分七厘

山蠟銀

内

貳匁四分

私領小向村ヨリ納

壹匁七分貳厘

私領横川濱村ヨリ納

一銀百四拾九匁四分壹厘

山直銀

内

四拾七匁四分七厘

前同斷

五拾八匁

前同斷

一銀拾三匁壹分 山畑銀
掛米百貳拾六石三斗八升四合六夕
一銀壹匁貳分壹厘 入草銀
一銀六匁六分四厘 雪垣萱苜銀
一銀五匁四分壹厘 薪夫銀
一銅錢七百貳拾四文 眞綿代
一銅錢七百四拾壹文 綱芋代
一銅錢六百六拾七文 个菜代
一銅錢四百九拾七文 藁廷代
一銅錢貳百拾壹文 澁柿代
一銅錢五百拾貳文 芋莖代
一銅錢百貳拾四文 疊原菰代

一銅錢六百七拾五文 楮代
一銅錢貳百六拾八文 草毛藪代
一錢七拾八文 糠代
一銅錢壹貫八百四拾壹文 藁代
一銅錢壹貫五百八拾三文 野直錢
此反別壹町貳反六拾貳步三尺
一里蠟穗貳拾三貫四拾六匁 定納
畑反別七町七反大九拾分三尺 但 = 五升五合七夕
外 = 四反大三拾五步損地引不還分
一大豆四石三斗四升 大豆納
右同斷
一荏三斗五升七合六夕 但反四合五夕九才
右同斷 荏納
但反三合貳夕貳才

一 稗貳斗五升九夕

稗三納

一 永貳拾文貳分

此漆木十七本

但十本付
永拾壹文九分

一 漆木二百十本

一 雜木御林

八ヶ所

一 御竹藪

四ヶ所

此反別三町四反大六拾歩

米百貳拾貳石九斗五升三合九夕

大豆四石三斗貳升

荏三斗五升七合六夕

納合 稗貳斗五升九夕

六里蠟糖貳拾三貫四拾六匁

銀三百七匁七分六厘

銅錢七貫四百廿壹文

永貳拾文貳分

右ハ當戊御取箇書面ノ通候條村中大小ノ百姓入作ノ者迄不殘立
會無高下割合之來ル極月十日限急度可普濟者也

寛政二戌年十月 大貫次右衛門

ニ據ッテ原告ヨリ毎年山直銀八匁宛被告へ渡シ來リシ趣申立ッレ
其割付面ニ據レハ銀百四拾九匁餘ノ山直銀ヲ被告ニ於テ上納セ
シコハ分明ナレモ原告ヨリ被告へ渡シタルトノ證ハ無之又原告ニ
於テ古來ヨリ山直銀等渡シタル舊記ハ勿論口碑ニ傳ヘタルコトモナ
ク元禄十五年ノ繪圖面ニ原告村方ノ地所トスヘキ色分ケモナキハ
則被告ノ地株タル旨申立ッレトモ元來該圖ハ裏書ニ明載ノ如ク春

秋萱草ヲ刈取ルコトヨリ爭論ヲ生シタル節扱人立入内濟シタル迄ニ
 テ地元地株ヲ爭フノ證據トスヘキモノニ非ラサルヲ以テ是亦辨駁
 セス唯文化文政兩度ノ山方規定書前ハ各證書共聊疑團ナキ能ス
 ト雖雙方ノ村吏調印無相違上ハ眞正ノモノニ相違ナカルヘシ然シ
 ナカラ實際山地ノ取扱振下ハ大ニ逕庭スルニヨリ假令證書ハ一旦
 成リ立タルモ其後必ラス取消シタルモノト思考セサルヲ得ス暫ク
 之ヲ眞正ノモノト爲スモ右兩通ノ證書タルヤ渾テ原告村部分山地
 境外ノコトヲ專指スルモノニシテ固有ノ山地ニ關係スルノ趣意
 毫髪モ見ヘス則明治九年十二月九日ニ差出シタル陳述書ニモ縷述
 セシ如ク兩證書共只疎密ヲ異ニスルノミニシテ大抵同一ノ主意ナ
 リ文化二年ノ證書ニモ大猿ケ澤小猿ケ澤兩村是迄進退ノ儘据置ク
 トアリ其他ノ數條モ到底兩村進退地ノ境界ヲ定ムルニ外ナラス殊

ニ同書第五條ノ同村ニテ山場ノ内古來持來ノ分御領主様へ銀目上
 納モ不仕湯川村へモ不相納自由ニ進退仕候場所モ相見云々ト有之
 此場所モ相見ヘノ數字ハ原告村方ノ者湯川村地内へ蠶食開拓セシ
 些少ノ地ヲ指示スルコト判然ナリ文政二年ノ規定書前ニモ文化二年
 證書前ニ第五條ニ基キ成立タルコト序文ニ明載シ而シテ其行文中古
 來ヨリ鎌倉新田ニテ銘々進退云々ト記載シ到底進退地ノ境界ヲ定
 メタルモノニ有之畢竟進退地アレハコソ其境界モ定ムヘキ物ナキ
 ニ其爭ヒノ生スヘキ謂レ無之依之右兩通證書ノ意味字句ニ拘泥セ
 ス全篇ヲ通覽シテ其主意ノ那邊ニアルヤヲ知ラハ原告ノ訴意自ラ
 貫徹スヘシ又原告カ證トセシ寛政二年ノ内熟極書前ニモ舊領主封
 域内除地山地ニ付爭論セシモノニテ是亦聊モ原告村及ヒ天ケ澤新
 田矢代田村ノ三个村今般所爭ノ地所ヘ係リ爭ヒシモノニ非ラス序

既文中ニ然ル上ハ御山一件ニ付末々迄異亂仕間敷ナリ左ノ通内
 熟仕御事トアリ則其的證ナリ除地山地ノコニ非レバ焉ソ御山御事
 等ノ敬語ヲ用可キヤ其他每章每句悉皆從來三ヶ村共山地ヲ固有セ
 シコ歴々可見只各村進退地ノ境界分明ナラサルニ付其不分明ノ場
 所ハ對シ四町八反步差遣シタルコト無相違相見ヘ右等數多ノ憑據ス
 ル所アルヲ以テスレハ寛政度ノ一件ハ到底除地山地ニ付タル等論
 ニテ強テ本件ノ證據トヤスヘキ者ニ非サルコトヲ發明シ陳述書中其
 見解及ヒ文化文政兩證書ノ辨駁等精細論究シ置タリ寛政二年ヨリ
 明治四年迄年々山直銀八匁宛原告村方ヨリ被告村方ヘ渡シ來タリ
 既ニ右山直銀送附狀中原告村方總代松尾久三郎直筆ノモノモ有之
 旨被告ヨリ申立ツレハ右送付狀ノ筆者ハ久三郎ニアラス又明治七
 年被告ノ請求ニ應ジ湯川山中ニ於テ原告村方ノ進退スル地所反別

取調遺シタル處其簿書表紙ニ借地山反別取調帳ト記セシテ證據ト
 シ被告ヨリ借地ナリト申立タレハ官有民有ノ區別不相立以前ニ
 在ツテハ高外ノ地ハ凡テ官有ト思ヒ一朝過ツテ借地ノ字ヲ用サ
 ルナリ然ルニ之ヲ奇貨トシ古來ヨリノ貸地ナリト云フト雖モ原告
 村方ニハ數通ノ買得證券及ヒ山直銀上納ノ割付面等ヲ現存シ實際
 ノ事務モ往古ヨリ原告村ニ於テ取扱ヒ來リ已ニ管轄廳ニ於テモ一
 且原告村ノ民有地ト確認セラレシテ其後新潟裁判所ヨリ照會ノ回
 答ニ全ク官有民有ノ種類ヲ別チタル迄ナリト云レタル趣ナレトモ
 原告村方ヨリ差出シタル書面ニ民有ト下知セラレシハ乃チ原告村
 方ヨリ民有地ト指揮相成タルモノニ相違アルマシ此等ノ情狀ヲ參酌
 シ訴訟入費ニ至ル迄至當ノ裁判ヲ乞フ旨申立タリ
 被告答辨ニ要領ハ元祿四年七月ノ舊幕府裁許繪圖ハ湯川村外一ヶ

村ヨリ橋田菅澤ノ両村ヲ相手取リ訴訟ニ及ヒシトキ下付セラレタ
 ルモノニシテ本圖ニ彩色ヲ以テモ當時寸地尺土モ原告ノ進退セシ
 區分無之全被告村方ノ進退地ヲリシコト瞭然タリ是往古ヨリ原告村
 方へ貸置タル第一ノ證據ナリ次ニ元祿十五年ノ繪圖ハ原告村方ト
 天ヶ澤新田外ニケ村湯川山中萱場ノコトニ付爭論ニ及熟議内濟ノ時
 製シタルモノニシテ其事タル地株ニ關セサルニ付被告村方ニ於テ
 ハ其爭論ニ加ラスト雖モ取扱ヒニ立入現ニ該圖裏書ニモ湯川山ニ
 テ萱場爭論云々ト明記シ鎌倉新田ノ地所ト認ムヘキ色分ケ等一切
 相見ヘス則是モ亦被告湯川村地株ノ一證トナスニ足ルヘシ寛政二
 年舊幕府代官大貫次右衛門ノ名ヲ以テ下付セラレタル年貢割付面
 前ニモ山直銀百四拾九匁四分壹厘内四拾七匁四分七厘私領小向
 村ニ納メ五拾八匁ハ私領横川濱村ヨリ納メ又ハ昭カニ記載シアリテ則

チ湯川村ノ納メタル額ハ四拾三匁九分四厘ニシテ其内原告村方ヨ
 リ八匁天ヶ澤新田ヨリ七匁宛更ニ貸地ノ分トシテ取立明治四未年
 迄年々上納シ來タリタルコトハ明治五年ノ割付面

本文割付面寫左ノ如シ

當申租稅上納割賦帳

未年ヨリ辰年迄十個年定免

越後國蒲原郡

一高貳百八拾四石五斗八升六合

湯川村

此古檢反別貳拾六町三拾九步三尺

此貢米百貳拾九石三斗五升三合

此譯

田高貳百拾七石九斗壹升壹合

此古檢反別拾七町八反小四拾七步三尺

此貢米百拾石五升六合

烟高六拾六石六斗七升五合

此古檢反別八町壹反半五拾貳步

此貢米拾九石貳斗九升七合

檢見

一高四石五斗七合

皆烟

同所新田

此古檢反別壹町五反五畝貳拾四步

此貢米八斗三升九合

右同斷

文政十一子高入

同所新田

一高七拾六石七升四合

皆烟

此古檢反別貳百拾五町三反五畝貳拾四步

此貢米五石四斗七升五合

貢米合百三拾五石六斗六升七合

一畑古檢反別壹町半三拾貳步三尺 大繩場

此貢米八斗六升四合

一山畑古檢反別壹反六拾七步三尺 大繩場

此貢米六升九合

一畑新檢反別壹町九步 大繩場

此貢米貳斗三升壹合

外

一米四升三合

山直米

一永百七拾貳文八分

抓漆代

此抓漆貳百四拾壹匁四厘

但漆百匁付永
七拾壹文七分

此木數貳百拾本

一永貳拾文貳分

漆木代

此木數拾七本

但十本付永

一永百拾三文

山蠟永

內

山蠟永

永四拾文

小向村ヨリ納

永貳拾八文七分

横川濱村ヨリ納

一永貳貫四百九拾文貳分

山直永

內

永七百九拾文壹分

右同斷

永九百六拾六文七分

右同斷

一永貳百拾八文三分

山畑永

一永百五拾八文三分

野直永

此古檢反別壹町貳反六拾貳步三尺

一里蠟穗廿三貫四拾六匁

定納

納合里蠟穗廿三貫四拾六匁

永三貫百七拾貳文八分

一竹御林

此古檢反別七反六百四步

右者申租稅書面ノ通候條總百姓立會無甲乙割賦致決算來ル十二

月限急度上納可致者也

明治五年申年十月

新潟縣廳



右村

戸長
用掛

ニ照シ明瞭ナリ却テ說元祿以來幾多ノ星霜ヲ經寛政ノ初年ニ至テ
ハ原告村方及ヒ論外天ヶ澤新田矢代田村ノ二个村漸々借地外ノ山
地ヲ蠶食開墾シ之カ爲メ被告村方ノ萱場秣場ヲ狭メラレタルニ付
其新開ノ畑方ヲ引上ノト爭論ヲ生シ終ニ寛政二年七月ニ至リ熟談
相整ヒ熟談極書前ニ載大ニ爲取替クリ則該證書中鎌倉新田外二ヶ村ニ
テ進退持來候山畑ノ内四町八反歩ノ地所湯川村地元ノ譯ニ候ヘル
内熟ニテ三ヶ村ヨリ金子差出三ヶ村へ地所引取候上ハ後年迄地元
ノ謂夫以テ場所等ノ境分湯川村ヨリ不申出右地所ハ三ヶ村自由ニ

進退可致極其餘三箇村持分山畑野山共此度立會鹿繪圖面ニ相記候
場所是迄ノ通ル地元三箇村ト猶又確ト相定候云々ト記載セシニ據
リ本訴第一ノ證據ト申立ルト雖モ同村及ヒ外二箇村先前ヨリ地元
ヲ引取必ラズ元祿四年吟味受可相願筈然ルニ其儀無之ノミナラス
元祿十五年四箇村萱場爭論熟談ノ繪圖面裏書ニ湯川山云々ト明記
スヘキ道理アルヘカラズ就中四町八反歩ノ地所ハ書中ニ字付ケモ
アラサルニ付キ茫手トシテ其地元ヲ定ムルニ由ナキ書ト云ハサル
ヲ得ス又之レニ屬セル繪圖面ニ於ケル唯黃白朱紅ノ四色ヲ以テ山
畑ノ字ヲ散布シタルノミニシテ則各村地元ノ境界ヲ定ムルモノニ
非スシテ各自入作進退場所ノ色分ケヲ略記セシモノニ過キス假令
地元ヲ定ムル色分ケト看做スモ何ヲ標準トナシ各村地元ノ境界ヲ
定ムヘキヤ一目ヲテ之ヲ定ムル確證ト爲シ能ハサルヲ知ルニ足ラ

ノ降ツテ享和ノ末文化ノ初メニ至リ原告鎌倉新田及ヒ天ケ澤新田
 於テ一途ニ地元ト誤解セルニヨリ被告湯川村ト再ヒ争訟ヲ生シ
 終ニ文化二年閏四月ニ至リ熟談内濟ニ及ヒ互ニ證文前ニヲ爲取替
 タリ則該書第一項中ニ鎌倉新田進退持來ノ由宇水筋澤山ノ儀全体
 湯川村分ノ内ヘ飛地ニテ古來ヨリ持來リト申者不分明ニ付取扱兩
 人ヘ引上ケ湯川村ヘ相渡ト有之第二項中同村ニテ字蘆ケ澤徒開畑
 方數ケ所有之分ニ取扱兩人ヘ引揚湯川村ヘ相渡スト有之第三項中
 字北ノ谷水筋澤櫻山々境ノ儀兩村立會中央ニ進退場山境相極第四
 項字大猿ケ澤小猿ケ澤ノ儀兩村是迄進退ノ儘据置ク極ノ第五項中
 同村山場ノ中古來ヨリ持來ノ分御領主様ヘ銀目上納モ不仕湯川村
 へモ不相納自由ニ進退仕居候場所湯川村地元ニ候間此分ニ限リ八
 匁ツ鎌倉新田ニテ配分取立湯川村ヘ此末年々相納可申極トアリ

第六項湯川村大境際先年通り横川濱村小向村ヨリ入會ノ場所銀目
 上納仕候間鎌倉新田ニテ右ノ場所ヘ差支申問敷トアリ如此逐條地
 所ノ字付ケサモ明記シ湯川村地元ト極ノ熟談書爲取替爾後年々山
 直銀八匁ツ受取來レリ是等最著敷證據ナリ文政二卯年九月中更
 ニ山方規定書ト題スル證書前ニヲ取置タル趣意ハ其序文ニ記シア
 ル如ク後日紛紜ヲ生シテ慮リ文化二年ノ證書前ニノ意ヲ體シ一
 層精密ニ地所ノ字付迄ヲ加記シ置タルモノナリ其書中右箇所ハ湯
 川村内山林開畑古來ヨリ鎌倉新田ニテ銘々進退致文化二丑年内濟
 ノ節モ右姿ヲ以夫々取極年々上銀八匁宛鎌倉新田役元ヨリ湯川村
 役元ヘ相納地面ハ其砌兩村立會ノ上境相改是迄無差支所持致來リ
 候ヘトモ尙又此度眞熟ニ及ヒ名持ニ不拘鎌倉新田一村ノ抱持地ニ
 相極候上ニ向後右場所ニ付地元村方ニテ聊故障申問敷候極メ然ル

上ニ此未持主相替リ候テモ其時々所持致候者ヨリ鎌倉新田名主方ニテ山直銀取立湯川村役元へ永々無相違相納可申極トアリテ鎌倉新田一村ノ抱持地タルコトハ争フヘクモアラズ而シテ此條約ハ五ニ確守シテ明治四未年迄ハ原告鎌倉新田ヨリ毎年山直銀八匁宛被告湯川村へ渡シ來リシコトハ右銀ノ送り書數筆有之中無印ナレモ現ニ原告總代松尾利右衛門事久三郎直筆ノモノモ有之加之本訴ノ論地ハ原告村方ニ於テ被告村方ノ地株ナルコトヲ確認シアレハコソ既ニ明治七年地券取調ノ際是迄貸渡シ進退セシ置タル地所精細取調方申遣タル節借地山反別取調帳ト題シタル帳簿へ鎌倉新田地主總代外二名連署シテ被告湯川村ニ屬シタルコト論テ竣タス然ルニ原告鎌倉新田ニ於テハ買得證券及ヒ山直銀割付書等ニ照シ實際事務取扱居ル趣ヲ口實トシ控訴及フト雖モ論旨頗ル曖昧ニシテ一ツモ探ル

可キ者ナケレハ強チ被告ノ辨駁ヲ要スヘキニアラズト雖昨明治九年十二月四日ニ口書始末書及ヒ明治九年十二月十一日ニ口書ヲ以テ之ヲ説明シ置タリ元來本訴ハ初審裁判所ニ於テ裁判セラレシ如ク徹頭徹尾原告ニ於テ之ヲ争フノ權利毫髪モアラサルコトハ最初ヨリ詳知シ在リナカテ今般控訴ノ上一層言ヲ巧ニシ初審答辨ノ趣意ニ反シ被告ヨリ呈シタル一切ノ證據書類等ハ本件ニ關涉セサル者也ト舞文羅織シテ騙欺眩惑ノ術ヲ逞セント欲スレモ被告ニ於テハ是非ノ判ルハ所曲直ノ決ル所ハ自ラ正理ノ存スル所ニ在ラン所只眞率ヲ旨トシ陳述スト申立タリ

第一條

元祿度ノ裁許繪圖ニ據レハ當時原告鎌倉新田ハ湯川山中ニ進退ノ

地所キカ如クナシモ寛政二年ノ内熟極書中其以前ヨリ山畑野山共三个村持居候場所モ有之其砌ハ如何様ノ申合等有之三个村出入相手村々相除候哉年來ノ事故相分リ不申云々トアル上ハ原告ニ於テモ本訴論所外ニ古來ヨリ進退シ來リタル地所アリシモノト看認サルヲ得ス依之被告ニ於テ元祿度ノ裁許繪圖ニ據リ原告ハ寸地尺土モ進退地ヲ有セザリシトノ陳述ハ採用シ難シ

第二條

寛政度ノ内熟極書ハ原告鎌倉新田外三个村ト被告湯川村ト地所爭論ニ及ヒ終ニ論所ノ中四町八反歩ノ代リシテ金貳拾兩ヲ原告三个村ヨリ被告ニ與ヘ該四町八反歩ヲ三个村ニテ自由進退シ其他四个村從來進退地所ヲ正シ山直山畑銀モ先規ノ如ク各正納スヘシト約東確定セシモノニシテ則湯川山中ニ於テ原被四个村進退ハ地

所ノ總體ニ付テノ契約書ト認定ス

第三條

原告證據物中ノ割付面ニ據レハ古來ヨリ山直銀八匁四分九厘宛毎年公納セシコトハ疑フヘカラス而シテ其山直銀ハ何地ヘ適當スル乎ノ問題ニ至テハ書中明載ナクシニ付キ之ヲ知ル可カラスト雖從來字御紙屋山モ進退シ加フルニ湯川山中ニモ寛政度ノ内熟書ニ掲ケタル如ク本訴論地ノ外ニ往古ヨリ進退シ來リタルモノアレハ此等ノ地ニ當ルノ山直銀ト見做サルヲ得ス

第四條

被告ニ於テモ寛政二年ノ割付書ヲ以テ原告ヨリ山直銀受取來リタル證トスト雖モ文化二年ノ契約書ニ初メテ山直銀八匁此末年々湯川村ヘ可相納トノ文字アレハ寛政以降文化以前ニモ授受シ來リタ

ルノ陳述ハ證ノ見ルヘキナクハ採用シ難シ
 第五條 文化ノ初ニ至リ寬政度契約ノ界ヲ超ヘ蠶食開墾シタルヨリ湯川鎌
 倉兩村ノ間ニ爭論ヲ生シ終ニ字水筋山蘆ケ澤等ヲ湯川村ヘ返シ水
 筋澤櫻澤ハ中央ニ境界ヲ定メ字大猿ケ澤小猿ケ澤ハ從來ノ儘据置
 キ鎌倉新田ニテ納税モナサズ湯川村ニテ納銀セズ古來ヨリ自由進
 退ノ地所等ハ皆湯川村地元ニ付テ向後鎌倉新田ニ於テ銀八匁ツ、
 持主共ヨリ取立湯川村ニ納メヘシト文化二年熟識契約セシモノナ
 リ爾後文政三年ニ至リ更ニ文化度ノ契約ヲ增補釐正シ契約書中ニ
 地所ノ字及ヒ持主等ヲ記載シ以後持主ニ拘ラズ鎌倉新田一村ノ抱
 持地トナシ其時ノ持主ヨリ鎌倉新田ノ村吏山直銀ヲ取立湯川村々
 吏ヘ渡スヘシト確定セシ者ナリハ本訴ノ論地ハ寬政度湯川山地總

體ニ付テノ内熟極書ニ掲ケタルモノニ關係ナク文化以降ノ契約ニ
 係ル所ノ地所ヲ專指スルモノトス

第六條

文政度ノ證書ニ毎年山直銀八匁ヲ被告ヘ渡シ云々トアルヲ見ニ論
 地ニ依然トシテ被告湯川村ヘ屬セルト明瞭ナリ又原告ニ於テ實際
 ノ事務モ取扱ヒ且數通ノ買得證券被告村方ノ百姓論地賣買ノキモ
 原告村吏與書承印セシ者アリ是則地所進退ノ實迹ナリト申立ルハ
 素ヨリ文政度ノ契約ニ從ヘハ悉皆契約ヨリ生スル一村抱持地ニ付
 テ當然ノ義務ヲ盡シタルモノニシテ之ヲ以テ原告ノ權利ヲ伸ル
 能ハサルノミナラズ却テ此等ノ行爲ハ雙方共連年契約ヲ確守履行
 セシ實迹ヲ呈露スルモノトス

第七條

明治七年中原告ヨリ被告へ送附セシ借地山反別取調帳ニ借地ノ二
字ヲ表記セシ全ク一朝ノ錯誤ニ出タルモノナリト申立レテ錯誤
ナリト看認ムヘキ證左モナク殊ニ文政度ノ契約書ニ照セハ事實相
當ノ文字ヲ用タルモノトス

第八條

前條々ノ理由ニヨリ本訴ノ論地ハ被告湯川村ノ地所ト判決ス依テ
訴訟入費ハ原告鎌倉新田ヨリ可償却事 明治十年七月十六日

大審院ニ於テ

原告 鎌倉新田總代西村源之十野口竹次郎上告ノ要旨

第一條

東京上等裁判所ノ判文第三條ニ古來ヨリ山直銀八匁四分九厘ツ、
毎年公納シタルハ疑フヘカラス而シテ其山直銀ハ何地ニ適當スル

カノ問題ニ至テ書中明載ヲ闕クニ付之ヲ知ル可カラズト雖從來
字紙屋山ニ進退シ加フルニ湯川山中ニモ寛政度ノ内熟書ニ掲ケタ
ル如シ本訴論地ノ外ニ往古ヨリ進退シ來リタルモノアレハ此等ノ
地ニ當ルノ山直銀ト見做サ、ルヲ得ストアレトモ右山直銀ハ乃チ
寛政度繪圖面ニ記載アル山地ト論外字紙屋山下ノ税額ニシテ原告
村方ニ於テハ右ノ外進退ノ山地無之又原告村方ニ存スル數十通ノ
賣買證書ニ依テ觀ルモ其字地悉ク寛政度繪圖面記載ノ字地ニ適當
シ他ニ進退ノ山地無之ハ明瞭ナリ且字紙屋山ノ如キハ厩カニ證券
ニ通ニシテ此山直銀 四拾五文ト記載アリ是ニ由テ之ヲ觀レハ其他
ハ則寛政度繪圖面ニ記載アル山地ト外ナラサルモノ知ルヘキナリ
然ルチ右賣買證書ヲ逐一審理セス又其所有セサル山地ヲ往古ヨリ
進退シ來リタルモノアリトシテ此等ノ地ニ當ルモノト見做ストノ

判決ハ不法ノ裁判ナリト思考ス
第三條

同第五條ニ本訴ノ論地ハ寛政度湯川山地ノ總體ニ付テノ内熟極書
ニ關係ナク文化以降ノ契約ニ係ル所ノ地所ヲ專指スル者トストア
レトモ右文化文政度ノ契約書ハ寛政度契約ノ境外ヲ自村ノ者トモ
追々蠶食開墾シタル山地ニ就キ成立タル契約書ナリ而シテ文政二
年山方規定書ハ文化二年ノ内濟書ニ據ル者ニシテ兩書ハ全ク一意
但疎密ノ異ナルアルノミ文化二年ノ書中第一項第二項水筋山下蘆
ヶ澤ノ内數ヶ所取扱人ハ引上ヶ湯川村ヘ相渡スト有之ハ當村ノ者
トモ自村ノ山地ヲ超越シ湯川村部内山地ヘ開發シ既ニ指摘スヘキ
程ノ地ヲ侵掠シタル箇所ヲ取戻ス趣意ニ有之第三項北ヶ谷水筋澤
櫻澤山境ノ義兩村繪圖面色分ケ通り立會中央ニ進退場山境相極

ルト有之ハ右三所ノ澤ト山トノ半腹ヲ境界ニシテ兩村部分ヲ交互
固守タルノ趣意ニ有之第四項大猿ヶ澤小猿ヶ澤兩村是迄進退ノ儘
据置有之モ亦同ク兩村ノ部分ヲ確守スルノ趣意ナリ之ヲ要スル
ニ第一項ヨリ第四項ニ至ル迄ハ事既ニ處分決定シタル者ト所轄山
地境界ヲ互ニ確守セント謂フ迄ニシテ後年ニ差響クヘキ趣意ニ無
之第五項同村ニテ山場ノ内古來ヨリ持來ノ分御領主様ヘ銀匁上納
モ不仕湯川村ヘモ不相納自由ニ進退仕候場所モ相見ヘ右ノ分ハ全
ク湯川村地元ニ候間此分ニ銀八匁宛鎌倉新田ヨリ湯川村ヘ此末年
々可相納ト有之ノミニシテ一個モ他ノ字義ヲ記載セサルハ是當村
ノ者トモ被告村部分ノ山地ヲ蠶食シタル場所ヲ指シテ記載シタル
迄ニシテ字或ハ箇所ヲ舉ケ録スル迄モ無之僅少ノ山地ナルハ推テ
知ルヘキナリ右ハ乙第二號東京上等裁判所ニ差出シタル陳述書ニ

明記陳辨シタリト雖モ右第四項兩村進退場山境相極云々第五項山
場ノ内云々此分云々第七項大境際先年通り云々入會云々トアルハ
乃チ原被互山地ヲ固有ノ境界ヲ確定スルニ要點ノ字句ナリトス右
要點ノ字句ヲ明載スル時ハ論地ハ果シテ僅少ノ地ナルハ自ラ明瞭
スヘシ然ルニ前書樞要ノ字句ヲ脱シ判決アリシハ乃チ原告ノ權利
ヲ損傷シタル不法ノ裁判ナリト思考ス

第三條

同第七條ニ原告ヨリ被告ヘ送付シタル借地山反別取調帳ニ借地ノ
二字ヲ表記シタルハ全ク一朝ノ錯誤ニ出タルモノナリト申立ント
モ錯誤ナリト看認ムヘキ證左モナク殊ニ文政度ノ契約書ニ照セハ
事實相當ノ文字ヲ用ヒタルモノトストアルトモ右ノ文化文政度ノ
契約書中貸借ノ字句アラサレハ何ヲ以テ相當ト云フヤ且其反別帳

ニ借地下表記シタルハ大藏省ノ布達ニ依テ一時錯誤シタルモノニ
シテ既ニ間接ノ證據トハ申ナカラ文化文政度ノ契約書ニ地本湯川
村トアルハ疑團ナキ能ハサルナリ然ルニ其當否判決アラサリシハ
不法ノ裁判ナリト思考ス

第四條

文政二年山方規定書中境相改繪圖面爲取交云々トアレハ必定被告
ハ所持アルヘシキレモ被告ハ紛失ニ托シ繪圖面ヲ不差出若シ之ヲ
提供ナスキハ僅少ノ山地ニシテ反テ兩村ノ山地部分ヲ確守スルノ
趣意ナラシカ若シ果シテ被告ハ文化文政度ノ兩證書ヲ以テ確證ナ
リト提供セシモ右圖ノ無之上ハ右兩證書トモ人ニシテ雙眼ヲ失ス
ルカ如キモノトス然ルトキハ右兩證書トモ確乎タル證左ニハ難相
立如此樞要ナル圖面ノアルモ終ニ審査ヲ用ヒス且ツ判文ニモ云々

掲載セザルハ不法ノ裁判ナリト思考ス

第五條

拾町五反七畝五步五厘乃チ借地山反別取調帳ノ合計ナルハ判然タリ然ルニ山反別取調帳中字鬼ヶ澤ト記載シアルモノ二十二ヶ所ニシテ其反別壹町三反八畝九分アリ之ヲ以テ文政度契約書ノ字付ケニ照ラセハ不相當ナルモノ一目瞭然タリ何トナレハ右契約書中鬼ヶ澤ノ字記載無之モノ其明記タルモノヲ審理セス單ニ被告ノ陳述ヲ採用シテ判決アリシハ不法ノ裁判ナリト思考ス

第六條

抱持地ト貸地トハ性質ノ異ナルモノ一目瞭然タリ夫レ抱持地ト稱スルモノ現地所有者ヨリ貢稅民費ニ至ル迄地元役場ヘ相納メ而シテ賣買ノ特權ハ自ラ存スルナリ然リト雖モ公賣ニハ必ス一定ノ

法理アリ則村吏ノ與書檢印之レナク若シ此手續ヲ經ルニ非ラサレハ賣買ノ効力ナキハ連々ノ公布ニテ判然タリ又貸地ト唱フルモノハ一人所有者アリテ之ヲ耕耘者ヘ貸付ケ耕作者ハ收穫ノ幾分ヲ所有者ヘ相納メ所有者ハ得ル處ノ幾分ヲ以テ貢稅民費トナスモノ是乃チ人民相對ノ貸地ト云フ小作地ト通例ナリ然ルニ判文第六條ノ如キハ右ニツナカラ其當ヲ得スシテ原告村吏ノ與書檢印アルモ抱持地ノ義務ナリトハ頗フル誤謬ノ裁判ナリト思考ス

第七條

原告村方小柳太一ナルモノ所有地賣買ノ證券二通アリ之ニ依テ觀ルトキハ原告村ト被告村方ト隣村天ヶ澤新田ト被告村トハ地所取扱方各不同アリ乃チ原告村方賣買證書ニ於テハ讓主親類組合連署シ與書名主ノ檢印ノミニシテ被告村ニハ之ニ關係セス天ヶ澤新田

ハ讓主及ヒ同村々吏連署シ而シテ其奥書檢印ハ乃チ地本被告村組頭某莊屋某ト明記シ以テ世上ニ信ヲ示スモノナリ然ルニ其當否判決アラザリシハ不法ノ裁判ナリト思考ス依テ爰ニ上告シ以テ破毀ヲ求ムル所由ナリ

上告ノ主點ハ左ノ二項ニアリトス

其一

文化文政度ノ契約書ハ原告鎌倉新田ノ者トモ寛政度契約ノ境界ヲ超ヘ湯川村ノ山地ヲ蠶食開墾シタルニ付キ成立ナシ者ナレハ兩書トモ全ク一意ニシテ兩村ノ山境ヲ差定メタルノミ故ニ此兩書ハ論所ノ全形ニ關係スヘキ者ニ非ス又寛政度ノ契約書ニ抵觸スルノ理ナシト云々

其二

抱持地ト貸地トハ性質ノ相異ナル者ナリ且賣買ハ一定ノ公法アリ必ス村吏ノ奥書檢印ヲ要セリ論所ノ賣買ニ付テ現ニ原告村吏ノ奥書檢印アルハ是原告ノ地所ニ係ル故ナリト云々

辨明

第一條

文化度内濟爲取替證書ヲ觀ルニ第一項第二項ハ水筋山ト蘆ヶ澤ノ内數ヶ所トノ取扱人ニ引上ケ湯川村ヘ相渡ストノ趣意ニ有之第三項ハ北ノ谷水筋澤櫻澤右三所ノ澤ト山ノ半腹トチ分チ兩村ノ境界ヲ定ムルトノ趣意ニ有之第四項ハ大猿ヶ澤小猿ヶ澤原被兩村ニ於テ是迄進退仕來リシ如ク其儘ニテ据置クトノ趣意ニ有之第五項山場ノ内古來ヨリ持來リノ分云々トアルハ原告村ノ者トモ被告部内ノ山地ノ處々蠶食シ其場所ハ領主ニ對シ銀目モ上納セス湯川村ヘ

モ不相納自由ニ進退シタルニ付此未銀八匁ツ、湯川村へ年々可相納トノ趣意ニ有之第一項ヨリ第五項迄ノ趣意ハ上告人供述スル者ノ如シ又文政度山方規定書ヲ觀ルニ右書中ノ初段ニ於テ十一ヶ所ノ字ト耕作人銘々ノ名前ヲ列記シタルハ原告鎌倉新田十五名ノ者トモ此十一ヶ所ノ場所ヲ銘々ノ名持ニシテ進退シタルヲ證明スルノ趣意ニ有之其但書中山直銀ハ去ル丑年及熟談云々トアルハ文化度内濟書第五項ニ記載シタル山直銀ハ原告村ヨリ年々納メ來ルニ付キ別段差出スニ及ハサルトノ趣意ニ有之同書末段ニ右箇所ハ湯川村地内山林開畑云々トアルハ字十一ヶ所ノ場所其他ノ開畑古來ヨリ原告村ニ於テ銘々名持進退致シ文化度内熟ノ節モ右舊形ニ依リ夫々取極メテキタル處此文政度ニ至リ原告村ノ村抱持地ニ相定メ山直銀ハ爾後原告鎌倉新田ノ名主ニテ取立更ニ湯川村ニ可相納

トノ趣意ニ有之右各種ノ趣意ヲ合シ且其實際ヲ察スルニ被告湯川村ハ文政度原告鎌倉新田ニ對シ互ニ其親熟ヲ要シ曩ニ内濟ノ節立會兩村ノ山境取極メタル者追々退役或ハ死失シ若シ後年ニ至テ内濟ノ趣意辨セサル者有之爭論ヲ起スモ測リ難キヲ以テ更ニ山方規定書ヲ取結ヒ而シテ内濟書ノ第一項第二項第三項及ヒ第四項ハ益之ヲ確守シ其第五項ト所謂字十一ヶ所ノ場所トハ是迄銘々ノ名持ニシテ之ヲ進退シタルノ處更ニ改メテ一村ノ抱持地トナシ山直銀ハ銘々ヨリ納メ來ルノ處亦改メテ原告鎌倉新田ノ名主ニ於テ之ヲ納ムヘシトノ約定ヲ取結ヒタル者ナリ上告人ニ於テ文化文政度ノ兩證ハ全ク一意ニシテ文政度ノ規定書ハ文化度ノ趣意ヲ申明シタル者ナリト供述スド雖モ文化度ノ内濟書ハ文政度ノ規定書ニ依リ之ヲ變更スル者アリ或ハ又之ヲ保存スル者アリ徒ニ之ヲ申明シタ

ル者ト謂フヘカラス又上告人ニ於テ文化文政度ノ證書ハ兩村ノ境界上ニ止マリテ論所ノ全形ニ關係シタル者ニ非ス又寛政度ノ契約書ニ牴觸スルノ理ナシト供述スト雖モ文化度ノ契約其兩村ノ境界ニ係リタルハ内濟書中第二項第三項及ヒ第四項等ノ數項アルノミ其第五項ノ地所ト規定書中記載シタル字十一ヶ所ノ地所トハ文政度ニ至リ原告村一村抱持地ト取極メタル次第ニシテ論所ノ一般ニ關係スルハ最モ明瞭ナリトス又上告人ハ東京上等裁判所ノ判文ニ於テ内濟書中第四項兩村進退場山境相極云々第五項山場ノ内云々此分云々第七項大境際先年通り云々入會云々トアルハ是原被雙方互ニ山地ヲ固有シ境界ヲ確定スルノ爲メ最モ要點ノ文字ナリ然ルニ之ヲ明記セザリシハ不法ノ裁判ナリト申立ルト雖モ文化文政度ノ兩證書ハ唯其境界上ノミニ止マラサルハ前既ニ辨明スル者ノ如

シ抑文化度ノ内濟書ハ文政度ノ規定書ニ於テ保存スル者アリ改正スル者アリ其保存スル者ハ文政度ノ證ト並ヒ存シテ廢棄スヘカラズ而シテ東京上等裁判所ノ判文ニ於テ兩證書ノ旨趣ヲ包括シ其保存シタル者ト改正シタル者トニ付テ之ヲ審明シ判文中ニ各項ノ文字ヲ略スルアリト雖モ其趣意ハ判然觀ルヘキアリテ決シテ要點ヲ虧キタリト謂フヘカラス且規定書ニ於テ山直銀八匁此末年々湯川村ヘ可相納ト明記シタル以上ハ原告鎌倉新田ニ於テ年々之ヲ納ムヘシトノ約定ヲ爲シタルハ明カナリ上告人ハ山直銀等一切之ヲ納メタルノ證迹無之旨申立ルト雖モ果テ納メサル次第ナレハ是原告ニ於テ其約束ヲ怠リシト看做サ、ルヲ得ス東京上等裁判所ノ判文ニ於テ本訴ノ論地ハ寛政度ノ内熟極書ニ關係ナク文化以降ノ契約ニ係ル者ト判決シタルハ至當ナリトス

第二條

山方規定書ノ末段鎌倉新田一村抱持地ニ相極メ云々ト記載シタルハ是迄銘々ノ名持ニテ進退シタルノ場所ヲ原告鎌倉新田ノ一村抱持地ニ差定メタリシトノ趣意ニ有之ハ前條ニ於テ既ニ明辨スル者ノ如シ而シテ銘々ニテ是迄擔當シタリシ山直銀モ亦鎌倉新田ノ名主ニテ之ヲ擔當スヘキハ亦規定書ニ於テ最モ明瞭セリ抑該論所ハ銘々ノ名持ヲ改テ一村ノ抱持地トシ山直銀モ亦銘々ノ擔當ヲ改テ一村ノ擔當トナシタルハ右地所ニ付テ賣買讓與ノ際原告鎌倉新田ノ村吏必ス此ニ與書檢印ス是前件約束テ一村ニ於テ引受ケタルハナリ上告人ハ文化文政度ノ兩證書ハ實際ニ成立タサリシ偽造書ナリト申立ルト雖モ原被雙方ノ百姓總代數名之ニ調印シ且文化二年內濟爲取替書ヲ取立其後十餘年ノ星霜ヲ經テ文政二年山方規定書

第三條

テ取立タルハ之ヲ實際ニ成立サリシ偽造ノ證書ト言フ可カラス又上告人ニ於テ山反別取調帳中字鬼ヶ澤ト記載シタル者二十二ヶ所ニシテ其反別壹町三反八畝九分ナリ而シテ山方規定書ノ字付ケニ於テ右ヶ所ハ記載コレナシ其記載ナキ分ト記載アル分トヲ混シ裁決シタルハ不法ノ裁判ナリト申立ルト雖モ文政度規定書中外進退仕來云々湯川村地内山林開畑云々ハ論所ノ一般ニ關係シタル文字ニシテ右鬼ヶ澤モ亦自ラ此文字中ニ包含シタル者ナリ東京上等裁判所ノ判文ニ於テ論所賣買ノ時原告村吏ニテ與書調印スルハ其契約ヲ確守履行スル者ト判決シタルハ至當ナリトス

明治八年地租改正局第十一號ノ布達ヲ觀ルニ山林原野池沼等官民有定方相達候處右達以前改正既濟ノ地方ト雖モ云々ノ分ハ内務省

～可相伺ト有之明治八年同局第十八號ノ布達ヲ觀ルニ從來ノ成跡
 止ニ於テ所有スヘキ道理アルモノヲ民有ト可定トノ儀ニテ管薪秣
 刈伐或ハ從前秣永山永下草錢冥加永納來候慣習アル者ヲ概シテ民
 有ノ證ト難見認ニ付キ如斯ノ類ハ原由慣習等篤ト取調經伺ノ上處
 分可致ト有之兩布達ニ付テ之ヲ考フレハ山林原野等ハ山永草錢或
 ハ冥加永等上納シタル慣習アリト雖モ別ニ所有スヘキ道理アルニ
 非サレハ之ヲ民有ト認視スルヲ得ス其原由慣習ヲ取調伺ヲ經タル
 上ニテ行政官ノ處分ヲ仰クヲ以テ至當トセリ該訴ハ文化文政度ノ
 契約ヲ以テ年々山直銀八匁宛原告鎌倉新田ヨリ被告湯川村役場へ
 相納ムヘシ湯川村ハ之ヲ受取り其山直銀トシテ上納スヘキ次第ナ
 レハ此理由ニ依リ湯川村ニ於テ其地所ヲ所有シタリシト視認ムヘ
 カラス又鎌倉新田ニ於テ其地所ヲ所有シタリシト視認ムヘカラス

其慣習原由ヲ取調行政官ノ處分ヲ受シヘキハ更ニ論ヲ待サルナリ
 而シテ東京上等裁判所ノ判文第七條ニ於テ借地山反別取調帳借地
 ノ二字ヲ表記シタルハ事實相當ノ文字ヲ用ヒタル旨ヲ明言シ論所
 ハ文政度ノ契約書ニ依テ被告湯川村ノ所有地ト視做シタルカ如シ
 ト雖モ抑同裁判所裁判ノ本旨ヲ考フルニ判文第六條ニ於テ論地ハ
 依然トシテ被告湯川村ニ屬スル明瞭ナリト判決シ又第八條ニ於テ
 論所ハ被告湯川村ノ地所ナリト裁決シ右裁決ノ趣意ハ湯川村版圖
 内ノ地所タルヘキヲ明言スルノミニシテ其所有ノ屬スル所權利ノ
 在ル所ヲ判定シタルコト非サルナリ故ニ第七條ノ判文中相當云々ノ
 語アリト雖モ同判文第六條第八條トテ照セハ湯川村版圖内ノ地ヲ
 原告鎌倉新田ニテ借受ケタリトノ趣意ニ有之該文意稍穩當ナラサ
 ルモ裁判ノ本意ニ妨ケナキヲ以テ強テ破毀ヲ求ムルノ原由トナス

ヲ得ス

判決

前條ノ如クナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキ者トス

第四百拾三號

○遺書履行請求及義妹取戻一件上告ノ判文 明治十一年二月五日申渡
九月十八日申渡

原告

東京府下第二大區五小區芝公園地新道廿八號
寓居東京府華族故池田德澄長女池田光子同人
實母曰田八十同人祖母

木村松野同人雇人中村

左右輔同中島察順向吉

村卯之吉右六名代兼

同所二十七號寓居平民

田村伊輔

被告

東京府下第一大區十三

小區濱町二丁目三番地

東京府華族

池田源

東京上等裁判所ノ審判

原告 池田光子外五名代兼田村伊輔控訴ノ要領 明治十年八月廿七日

第壹條

故池田德澄ニ於テ自ラ隱居シ被告池田源ヲ養子ト爲ス等ノ願書ヲ其筋ニ差出シタルハ德澄ノ素志ニ非ス何トナレハ其願書ハ明治八年十一月五日宗家池田慶徳及親戚等暴行強迫ヲ究メ德澄之ヲ如何トモスル能ハサル際成立タルモノナルヲ以テ德澄ハ明治八年十一月廿四日東京裁判所檢事局ニ告訴シ且ツ明治八年十二月十七日左ノ隱居并ニ家督取消ノ願書ヲ東京府廳ニ差出シタリ

私儀去ル十一月下旬隱居家督ノ儀御聞濟相成候由傳聞仕候處本月三日右御達書落手不仕旨御尋ニ付翌四日書取ヲ以テ御答申上候通隱居ノ儀ハ素ヨリ私不本意ニ御座候間何卒出格ノ御慈憐ヲ以テ右隱居家督ノ儀御取消被仰付候様此段奉願上候以上

第四大區一小區東紅梅
町十五番地東京府華族

明治八年十二月十七日

從五位 池田德澄

東京府知事大久保一翁殿

然ルニ同廳ヨリ何等ノ指令無之且ツ告訴ノ事件東京上等裁判所ニ於テ審問中明治九年十二月十三日德澄死亡セシ事ナレハ其養子タルノ許諾ヲ爲サ、リシ事判然タリ然ルヲ初審ノ判決ニ被告源ハ池田家ノ戸主タルヲ勿論ニシテ德澄既ニ死亡シタルハ通義上池田家ノ財産其他一切戸主ノ權内ニ非サルモノナシト宣告セラレタルハ承服シ難シ

第二條

被告源ニ於テ戸主タルノ權利ハ德澄生存中明治八年十一月廿五日太政官ノ辭令ニ因リ已ニ受得タルモノトスルカ決テ然ラサルナリ何トナレハ該池田家ハ官有物ニ非ス其所有者ハ則其戸主タル者ノ

願ニ依リ之ヲ許容セラルヘキモノナレハ該葛藤ノ如キ事故アリテ
取消ヲ求ムル時ハ是亦其所以ヲ詳ニシ之ヲ許容セラルヘキナリ且
ツ該辭令書ノ下付セラレタルキハ告訴事件ニ付東京裁判所檢事局
ノ審問中ニ係レハ德澄之ヲ受領セス依テ池田德定ヘ預ケラレタル
モノナレハ德澄ニ於テ其可否ノ如何ヲ詳知シタル事ナシ然ルヲ初
審ノ判決ニ被告源ヲ戸主ナリト申渡サレタルハ承服シ難シ

第三條

德定ノ刑名宣告ノ但書ニ德澄ニ於テ辭令書ヲ差拒ムヘキ筋無之ト
アルニ因リ當廳ニ於テモ德澄ノ養子ハ其承諾ニ出タルモノト認ラ
レタリトスルカ決シテ然ラサルナリ何トナレハ該但書ノ如キハ民
事ニ屬スヘキモノニシテ刑事ニ屬スヘキモノニ非ス殊ニ德澄ヨリ
民事關係ノ條件ハ退テ出訴ノ心得ナル旨明治八年十二月三日東京

裁判所檢事局ヘ申立置タリ且該民事ノ如キハ假令刑事ニ附帶スル
モノトスルモ戸婚ノ成規ニ基キ審問ノ結局ニ至リ更ニ宣告スヘキ
モノト思考セリ然リ而テ德澄ト源トハ從父兄弟ニシテ源ノ德澄ヨリ
年長ナルヲ九年ナリ新律綱領等親圖ノ末文ニ兄弟ノ子相呼テ從父
兄弟トス長者ヲ兄ト云ヒ少者ヲ弟ト云フトアルニ依レハ三等親ノ
尊長ナルヲ論テ按サルナリ然レハ明治六年一月二十二日第二十八
號華士族家督相續ノ公布第五項ニ父兄伯叔總テ目上ノ者目下ノ家
ヲ繼承スルトキハ相續人ト稱シ養子トハ稱スヘカラストアリテ右宣
告書ノ如キハ戸婚ノ成規ニ違フモノヲ許シタルノミナラス德澄ノ
爲メ加害者タル德定ヘノ宣告ニ止マルモノナレハ其効ノアラサル
ヲハ論テ按タス且又如此戸婚ノ成規ニ抵觸スレハ該養子ノ條件ハ
德澄ヨリ出願スヘキヲニアラスシテ官ニ於テモ亦之ヲ許可スヘキ

事ニ非サレハ被告源ハ素ヨリ養子トイフヲ得ヘカラサルモノナリ
故ニ德澄死亡ノ際田村伊輔外六名ニ左ノ十一ヶ條ノ遺言ヲナシタ
リ標記遺言ノ二字ト末文右ノ通り依頼候也以下ノ文字ハ德澄ノ自
署ニ係ルモノニシテ中間ノテ條ハ德澄ノ申聞ニ從ヒ田村伊輔之ヲ
記載セリ

遺言

一 萬々一ノ節一同心得方ノ事

於光ハ相續人ニ決定ニ付金祿ヲ初メ所持ノ物品渾テ同人ニ讓
ル條一同可心得候事

一本家ノ事

池田慶徳ハ相係ル云々中當家尙事モ相談無ト決定ス死後對顔
不致候舊臣ニ至迄同様可心得候事

一 愛宕下ノ事

源儀ハ御判決ノ上ハ迅ニ爲引拂ハ勿論所有物改メ可請取事

田村伊輔へ申付ル

一 今般舊縣地ノ事

田村伊輔へ諸事申付候何事モ取計可申事先以抵當口可取計事

一 於光ノ事

相續ニ相立可申尤可然後見ノ義モ外不都合無之様可取計候事

一 松野ノ事

相續相立候上ハ同人生涯二人扶持成三人扶持成リ遣ス様外別
證ノ通り讓ル

一 於ハナノ事

前同様

一 上等裁判所ノ事

諸般田村伊輔へ申付候事

一 大塚金七ノ事

田村伊輔ニ至急取計方申付ル

一家從ヲ始メ其外ノ事

何事モ田村伊輔ト協議ノ上盡力可致事

一 拙者身ノ上ノ事

右之通依頼候也

明治九年十二月十二日

從五位池田德澄花押

田村 伊輔

中村左右輔

吉村卯之吉

なうーま

然ルチ初審ノ裁判ニ於テ該遺言ヲ以テ爲スヘガラサル遺囑トシ被
告源チ戸主ナリト裁判アリタルハ不條理ノ裁判ト思考ス

第四條

德澄戸籍中被告源ヲ記載スルハ公正ノ附籍ニ非ス何トナレハ德澄
ニ於テ源ヲ養子トナシタル等ハ決テ承諾ナキヲ以テ其始末ヲ告訴
シ或ハ隱居家督ノ取消願書ヲ東京府廳へ差出セリ然ルニ明治九年
一月中被告源ニ於テ本管ヨリ送籍來着ノ趣ヲ以テ德澄戸籍中へ編
入ノ義ヲ區務所へ申出タルニ戸長之ヲ東京府廳へ伺出同廳ニ於テ
該件ハ德澄告訴中ナレハ其裁判ノ結局マテ別途ニ記シ置クヘキト
ノ指令ニ基キ假リニ戸籍ノ傍ニ記載セシトナレハ明治九年十二月
十二日德澄死去ノ際右告訴事件尙審問中ニ係ルヲ以テ光子ヲ相續

入ト遺言シタルハ當然ノ理トイフヘシ

第五條

被告ニ於テ源カ養子トナリタルハ德澄ノ承諾ヲ得タル云々答辨ス
トイヘト明治八年十一月六日七日ニ於ケル原告日記ノ如ク親族及
舊臣等德澄ニ對シ暴行強迫ヲナシタル際ニシテ已ニ德澄生母松野
等東京裁判所第三支廳ヘ告訴セシテ以テ其證據ヲ見ルニ足レリ加
之明治八年十一月五日ヨリ二十四日マテ十五日間德澄幽閉ノ景况
及其已前ヨリノ始未ハ東京上等裁判所刑事裁判ニ於テ德澄供出セ
シ如クナレハ該件ハ其承諾ナキ事判然タリ

第六條

被告ニ於テ其第一號證書明治八年十一月六日德澄ヨリ慶德外八名宛ノ依頼書ハ德澄ノ自署
調印ナルヲ見レハ養子ノ事タル德澄ノ本意ニ出タルヲ信スルニ足

ルヘキ旨答辨ストイヘト明治八年十一月五日暴行強迫ノ后慶德該
書ノ草稿ヲ投シ德澄ニ自記スヘキヲ命シタルハ德澄之ヲ肯セサル
ヨリ親族等前後ヨリ德澄ヲ抱キ或ハ左手ヲ押ヘ或ハ右手ヲ取リ強
シ之ヲ自記セシメ又印章ノ如キハ慶德已ニ之ヲ取揚アリシヲナレ
ハ該書成ルノキ之ヲ親族ニ投シ前記ノ如ク德澄ニ迫テ調印セシメ
シモノニシテ是等ノ事ハ刑事審問ノ際已ニ德澄ノ供出セシ所ナリ

第七條

被告提供セシ第二號證書明治八年十一月九日付養子願書ハ德澄ノ自記ニ非ス又押
印ハ前條ノ如クシテ之ヲ爲サシメタルモナレハ其承諾ニ出タル
ヲ決テ無之且該書面ニ德澄未タ男女子無之云々トアリ是又其承諾
ニ非サルヲ證スルニ足レリ何トナレハ德澄ノ遺子光女ハ明治八年
十二月十二日ノ出產ニシテ該書面ノ日附即明治八年十一月九日ニ

於テハ妊娠已ニ九月月ニ及ヒ將ニ分娩ノ景況人目ニ觸レサルナキ
ノ際ナレハ豈ニ之ヲ以テ男女子ナシト云ノ理アラシヤ

第八條

被告第三號證書 明治八年十一月十五ノ如キモ前條ニ同シク德澄自
署調印セシヲ及ヒ伊島惟正ニ診斷ヲ受ケタルヲ決テ無之且該書面
ハ縷麻質相煩種々療養ヲ加レテ寸驗ナシトアレハ德澄ニ於テ曾テ
同病ヲ煩ヒタルコト之ヲシナシ又診斷書ナルモノハ明治八年十一月五
日德澄家扶山崎淳德澄ト共ニ暴行壓制ニ遇フ際德定ヨリ記載スヘ
キヲ命ジ之ヲ固辭スレハ肯セズ遂ニ德定淳カ手ヲ取り書記セシメ
タルニ淳ハ醫師ニ非サルヲ以テ不可然旨申立ルニ付然ラハ伊島惟
正ニ書記セシコトニ可致旨ニテ成立タルモノナリ殊ニ慶徳ハノ刑事
宣告ニ毫モ德澄カ不治病者ノ文旨アルヲ見ズ然ハ如此上申ハ詐ヲ

實ヲ以テセサルモノト思量セリ又診斷書ヲ作ルスヲ尙如此強迫ヲ
以テセシハ則チ德澄ノ養子願等ハ強迫ニ出タルヲ見ルヘキ證トイ
フヘシ

第九條

被告源ヲ養子トナサント出願シタル日即明治八年十一月九日德
澄ノ伯母銚女ヲ池田輝知ノ養女トナサント出願シ又十二月十四
日ニ於テ右銚女ヲ被告源カ妻ニ娶セント出願シタルモ總テ德澄
蟄居中ニ係レハ其意ニ非サルヲ判然タリ且銚女ハ德澄ノ養父仲立
ノ姉ナレハ德澄ノ伯母コテ當時德澄ノ戸籍中ニ掲載シアツテ實際
輝知ノ所ニ遺シタルモノニ非ス只被告源ト配偶セシメントシテ
假リニ輝知ノ養女ト稱シタルモノナリ又明治八年十一月ハ輝知年
十七年未滿ナルニ三十四年余ノ銚女ヲ養女ニ貰ヒ受ルノ理アラソ

ヤ德澄如何ニ愚ナリト雖モ伯母銓女ハ被告源ノ養子ニ貰受クルノ白痴ナランヤ故ニ被告源ヲ伯母ナル銓女ノ智トナシ之ニ家督ヲ讓ル等ハ決テ德澄ノ許諾セシモノニ非サルノ確證ナリ

第十條

前條々ノ如ク池田德澄ト被告池田源トノ間ニ成立タル隱居養子家督願書等ハ總テ暴行強迫ニ因リ且戸婚ノ成規ニ違ヒ其効ナキモノニ付被告源ハ速ニ退身シ德澄遺言ノ如ク德澄長女光ヲ以テ該池田家ノ相続人ト定メシコトヲ請求ス故ニ被告ヨリ原告ニ對シ右光女ヲ以テ被告源カ義妹トシ其取戻ヲ出訴スルハ甚謂レナキコトニテ其請求ニ應スヘキ條理之レナシト思考ス

被告池田源代理朽木實答辨ノ要領

第一條

原告人ニ於テハ被告養父故德澄ヨリ其筋ヘ捧ケタル養子願書並ニ隱居願書等ハ宗家池田慶徳及親族ノ強迫ニ出タリトシテ德澄ヨリ告訴セシニ其審問中不幸ニシテ病死シタレモ其形跡ニ據テ見ルキハ德澄養子ノ不服ナルヲ知ルニ足ル可キヲ主張シ畢竟被告源ハ德澄ノ承諾ヲ得テ養子ト爲リタルニ非サルヲ以テ養子ノ効ナシ且ツ戸主ニ非サル旨ヲ陳述ストイヘモ被告ニ於テ德澄ノ養子トナルノ初ハ明治八年十一月六日宗家池田慶徳ヲ以テ被告實父池田栗ハ兼テ德澄家政ノ治マラサルヲ以テ親族協議並ニ本人德澄承諾ノ上養子トスルニ決定セリ依テハ源ヲ養子ニ貰受度トノコトニ有之實父栗並ニ源再三之ヲ辭シタレモ尙ホ敢テ依頼有之ヲ以テ遂ニ其請ニ應スヘキ旨内約セリ翌七日午前十時頃德澄家扶心得仙石東舊家扶吉田恭敬兩人ノ者德澄ノ使者トシテ實父栗ノ寓居ニ來リ源ヲ養子ニ

實ヒ受度旨ヲ陳ス稟内約ノ如ク之ヲ承諾シタリ午後五時頃德澄ノ使者遠藤思貫源ノ迎トシテ來リタルニ付キ源同伴シテ德澄ノ邸ニ到リ父子ノ契約ヲ結ヒ十二月九日第二號證ノ如ク養子取組ノ願書ヲ作り德澄ヨリ東京府廳へ差出シ十一月十四日願ノ通聞届相成タル旨府廳ヲ經由シテ達セラレタリ如此德澄ノ親戚ヨリ養子ノ談示ヲ受ケ續テ德澄ノ使者直接ノ依頼ヲ諾シ既ニ内祝儀ヲ行ヒシノミナラス又德澄ヨリ親戚へ第一號證ノ如ク養子家督ノ依頼書ヲ差出シタリト聞ク其證書ハ德澄自署調印シタルモノニシテ是等ノ證書ニ至テハ德澄承諾シタル上ニ非サレハ必爲サハルノ道理ナリ此ニ因テ之ヲ觀レハ養子ノコタル德澄ノ本意ニ出ルコト信據スルニ足ルヘキナリ

第二條

養子ハ既ニ聞濟ナリタルヲ以テ明治八年十一月十五日第三號證ノ如ク隱居家督ノ願書ヲ東京府廳へ差出シタリ是ヨリ先キ德澄養母樂山自刃セシコアリ其後尙家政不取締トテ親戚憂慮ノ餘リ宗家ヨリ附人ヲ置キ又親戚ヨリ論スニ暫時ハ他行ヲ自身ニ禁スヘキ旨ヲ以テセシニ德澄ハ附人及ヒ説諭等ノコトハ自己ノ自由ヲ妨害サレシト一時ノ忿激ニ出テタリシカ明治八年十一月二十日午後第十一時頃邸内ヲ潜出シ其後翻テ隱居ヲ願ハサル等ヲ云ニ至ルト見ヘタリ然レモ一旦自己ノ本意ヲ表シテ自ラ證印セシ願書ヲ東京府廳へ捧ケアルヲ以テ二十二日奏請ノ上德澄隱居被聞食源へ家督被仰付タリ然レハ其隱居家督ヲ爲スノ事跡上ニ於テハ毫モ強迫ノコトアリト

第三條

明治八年十一月二十四日德澄ヨリ告訴シタルヲ以テ其事跡ノ始
 就テ不服或ハ不許諾ナル旨陳述スト雖モ元來告訴人ノ片言ヲ以テ
 其當否ヲ定ム可キニ非サレハ刑事ハ告訴シタルモ其事ノ實否ヲ正
 サントスレハ其事ノ結局ニ就テ論セサレハ明瞭ナラサルナリ若シ
 原告陳述ノ如ク德澄於テ親戚ヨリ暴行強迫ヲ受タリト告訴シタル
 ノ故ニ其強迫ノ實跡及隱居養子ノ不服ナルヲ知ルヘシトセハ被告
 於テ素ヨリ其擬律ハ論スヘキ所ニ非サレトモ若シ果シテ暴行強迫ヲ
 以テ隱居養子セシメタル實跡アルキハ其罰決テ不應爲ニ止ラスシ
 テ德澄ヲ隱居源ヲ養子トモ見認メラレサルニ至ルヘシ然ルニ唯其
 處置穩カナラサル廉ノミヲ不應爲ニ問ハレ隱居養子ノ廉ハ之ヲ見
 認メラレテ處分アリタリ是其刑事申渡ニ於テ明カナリ如此結局ニ
 就テ見ルキハ審明ノ上暴行強迫ニ出サルコトハ決定シタリト信スル

ニ足レリ然レハ則隱居養子ハ德澄ノ承諾上ヨリ出タリト謂ハサル
 ヲ得ス何ソ亦告訴而已ヲ以テ不服ノ證トナスヲ得ソヤ然レハ原告
 該訴狀第一條ニ於テ養子ノ効ナク戸主ニモ非スト云ハ其條理ナキ
 明瞭ナリ

第四條

原告控訴狀第二條ニ池田家ハ官有物ニ非ス私有物ナリ云々トハ甚
 解シ難シトイヘト到底辭令ヲモ取消シ得ヘシト云ノ意ナルカ若シ
 然ラハ何ソ夫レ不當ナルノ甚シキヤ其隱居ヲ願フハ德澄ノ隨意ナ
 ル下雖モ既ニ之ヲ被聞食源ニ家督被仰付タル上ハ德澄於テ格別ノ
 原由アレハ再相續ハ願フコト得ヘシト雖モ是ヲ取消スル權ナキコ
 論ヲ俟タサルナリ亦被告ニ於テ養子願書ニ男女子無之トアレトモ光
 女妊娠九ヶ月餘ナリ云々ト申立ルト雖モ未ダ出産モ無之モノニ付

男女子ナシト記載セシハ當然ナリ又惟正診斷書ハ強迫ニ依テ山崎
淳ノ記載ニ係ル云々申立ルトイヘモ惟正ニ於テ診察上病氣アルヲ
認テ捺印シテ府廳ヘ差出シタルヲ見レハ真正ナルコトハ勿論強迫ヲ
以テ成立タルモノニハ決テ無之

第五條

原告控訴狀第二條殊ニ該隱居養子一件ノ如キニ至リテハヨリ以下
該辭令ハ池田徳定ヘ預テ相成タル者ナレハ其可否ヲ詳ニセズンハ
アルヘカラス云々ハ徳澄告訴中ニ係ルヲ以テ之ヲ請取ラサルノ當
否ヲ審問セシ裁判ヲ受タル上ニ非サレハ其結局ナクシテ隱居トハ
定メ難シト云ノ意ナルカ果シテ然ラハ益了解シカク該辭令書ノ
下附アリタル所以ハ第二條ニモ陳スル如ク徳澄ヨリノ請願ニ由テ
來ルモノナレハ徳澄ニ於テ差拒ムヘキ筋ナキコト瞭然ク既ニ刑

ヲ

事ニ於テモ隱居養子ノコトハ之ヲ見認テ處分アリタレハ其可否亦詳
カナルニ非スヤ而シテ徳澄既ニ死去セシ上ハ相續人ヘ受取ルヘキ
ハ亦其條理ナリ何ソ其終リノ詳カナラサルモノトセン

第六條

原告ニ於テハ尊卑ト長少ヲ混同スル者ノ如シ夫レ尊卑ノ別ハ其等
位ニ因テ定メ長少ノ別ハ其年齢ニ因テ定ム可キナリ則チ姪ノ姑ヨ
リ年長ナルモ婦ノ夫ヨリ年長ナルモ養子ノ養父ヨリ年長ナルモ等
親ヲ以テ論スルハ是等ノ長者ハ卑幼タリ少者ハ尊長タリ故ニ年
ノ長幼ニ因テ尊卑ヲ定ムヘカラス而テ從父兄弟ハ相婚嫁スルモ又
養父子タルモ戸婚ノ法ニ於テ禁セサレハ年齢ノ長幼ニ因テ尊卑ア
ラサルコト知ルヘキナリ然レハ被告ノ養子タルヤ何ソ戸婚ノ成規ニ
背クモノトセンヤ原告ノ所謂等親圖ノ末文ニ長者ヲ兄ト曰ヒ少者